

2

## 全国推進の取り組み

# 【検討委員会】

## 第1回検討委員会(検討内容)

### 検討委員

分野	所属	講師名
全国的な農業・食品業の支援	食と農研究所 代表	加藤 寛昭(座長)
全国的な農業・食品業の支援	株式会社K3ロジスティクス 代表取締役	四本 和臣
全国的な組織化運営	東京大学農学生命科学研究科海洋アライアンス 特任研究員 株式会社アイファイ 代表取締役	千田 良仁
労務管理	キリン社会保険労務士事務所	入来院 重宏

(敬称略)

### 議事次第

日時：平成26年6月17日（火）14:00～16:00

会場：パソナグループ本部（東京）

1. 開会
2. 事業管理責任者代理（株式会社パソナ農援隊 取締役 根本恵介）より挨拶
  - 1 パソナ農援隊の紹介と担当者の紹介
3. 会議参加者紹介
  - 1 各検討委員のご紹介
  - 2 農林水産省担当者のご紹介
4. 議事
  - 1 全体的な事業概要の説明
  - 2 全国推進事業の概要と状況の説明
  - 3 地区推進事業の概要と状況の説明
  - 4 全国推進事業の施策についての検討（全体のスケジュール検討）
  - 5 第1回全国会議（キックオフ会議）の検討
    - ・パネルディスカッションの検討
    - ・地区推進セミナーの検討
    - ・チラシの確認（告知の御願い）
5. その他、共有事項・連絡事項
  - 1 WEBの方向性検討



## 第2回検討委員会(検討内容)

### 検討委員

分野	所属	講師名
全国的な農業・食品業の支援	食と農研究所 代表	加藤 寛昭(座長)
全国的な農業・食品業の支援	株式会社K3ロジスティクス 代表取締役	四本 和臣
全国的な組織化運営	東京大学農学生命科学研究科海洋アライアンス 特任研究員 株式会社アイファイ 代表取締役	千田 良仁

(敬称略)

### 議事次第

日時：2014年9月25日（木）14時30分～（予定）16時30分

場所：パソナグループ本部ビル B1階Aルーム（〒100-8228 東京都千代田区大手町2-6-4）

#### 次第

##### 1 開会挨拶

###### ① 本日のご出席者紹介

##### 2 議事

###### ① 地区推進事業者の状況報告

###### ② 全国推進状況報告

事業目的の確認および目標達成の方策

(チラシ、WEB状況、今後のスケジュール、成果物の確認)

###### ③ ブロック会議について

開催場所、時期、プログラム

###### ④ 育成手法の検討について

##### 3 閉会

## 第3回検討委員会(検討内容)

### 検討委員

分野	所属	講師名
全国的な農業・食品業の支援	食と農研究所 代表	加藤 寛昭(座長)
全国的な農業・食品業の支援	株式会社K3ロジスティクス 代表取締役	四本 和臣
全国的な組織化運営	一般財団法人食品産業センター 振興部	二瓶 徹
全国的な組織化運営	東京大学農学生命科学研究所海洋アライアンス 特任研究員 株式会社アイファイ 代表取締役	千田 良仁
労務管理	キリン社会保険労務士事務所	入来院 重宏

(敬称略)

### 議事次第

日時：2015年1月7日（水）14時00分～16時30分（予定）

場所：パソナグループ本部ビル 9階 多目的室9Gルーム（東京都千代田区大手町2-6-4）

#### 次第

##### 1 開会挨拶・議事次第説明

###### ① 本日のご出席者紹介

##### 2 議事

###### ① ブロック会議の開催状況について

###### ② 新農業人フェアの出展状況について

###### ③ 地区推進事業者の状況について

###### ④ 全国推進事業の状況について（WEB・制作物・ツール等について）

###### ⑤ 最終報告会議（仮称）の開催内容について

###### ⑥ 最終報告書（仮称）の内容について

# 【全国会議・ブロック会議】

## 第1回全国会議「キックオフミーティング」(実施状況)

### 第1回全国会議 参加者

農水省関係者：14名 地区推進：26名 検討委員：5名 取材枠：4名

一般参加者：39名（企業14名、官公庁・自治体3名、社団法人・NPO3名、その他9名） 合計88名

### 式次第

日 時：平成26年7月4日（金）第一部13:30～15:00／第二部15:10～17:00  
会 場：株式会社パソナグループ 8階

#### 【第一部】キックオフミーティング

##### 1 開会

##### 2 挨拶

農林水産大臣政務官 小里 泰弘

株式会社パソナ農援隊 代表取締役社長 田中 康輔

##### 3 講演 「我が国農業をめぐる情勢と援農組織に対する期待について」

農林水産省生産局農産部技術普及課 佐藤 京子

##### 4 パネルディスカッション 「援農隊の可能性について」

食と農研究所 代表 加藤 寛昭

NPO法人 南アルプスファームフィールドトリップ 理事長 小野 隆

NPO法人 生涯の地域活動支援の会 アツマールぎふ 理事長 池田 浩一

西宇和農業協同組合 営農指導部 課長 菊池 文雄（八西地域農業振興協議会）



#### 【第二部】援農隊マッチング支援事業推進セミナー

##### 1 全国推進事業の紹介

株式会社パソナ農援隊 岩澤 啓之

##### 2 各事業者による地区推進事業の紹介

NPO法人 おかげ

農業生産法人 あすファーム松島

柏農えん 有限責任事業組合

長野県

NPO法人 南アルプスファームフィールドトリップ

とぴあ浜松 農業協同組合

NPO法人 生涯地域活動支援の会 アツマールぎふ

大阪府

NPO法人 農業マッチ勉強会

兵庫県

徳島県（鳴門藍住農業支援センター、阿南農業支援センター、徳島農業支援センター）

八西地域農業振興協議会

長崎県

（全13地域15団体）



##### 3 講演 「農業の労務管理のポイント」

キリン社会保険労務士事務所 所長 入来院 重宏

##### 4 閉会

◆平成26年度 農林水産省 援農隊マッチング支援事業 第1回全国会議資料

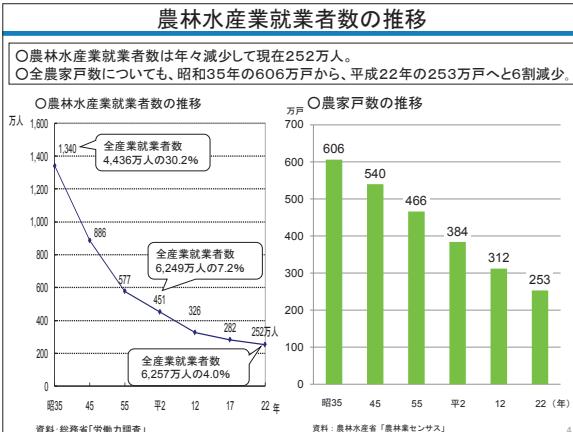


平成26年度農林水産省  
援農隊マッチング支援事業

# 第1回全国会議

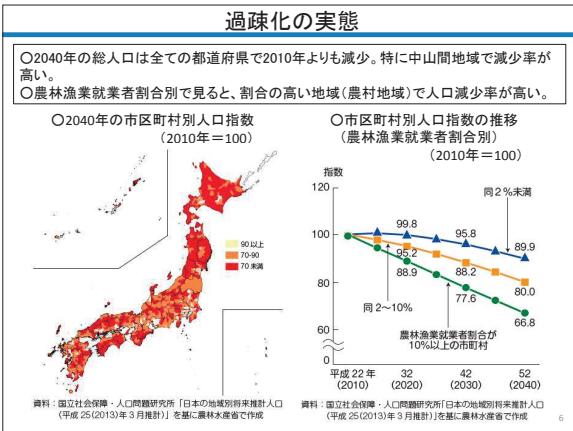
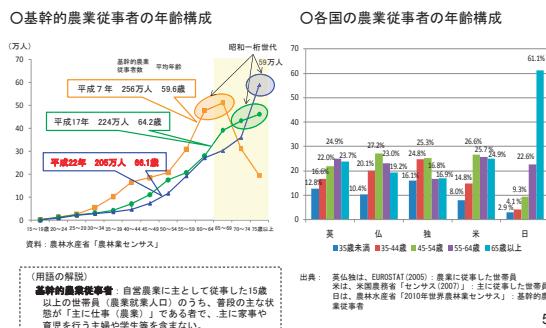
## 我が国農業をめぐる情勢と 援農組織に対する期待について

平成 26 年 7 月



## 担い手の高齢化

平成22年における基幹的農業従事者数は205万人、平均年齢は66.1歳



## 規模拡大における労働力確保の必要性

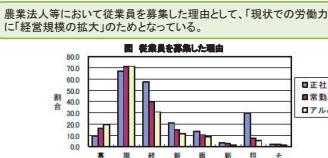
大豆・麦において、作付面積が拡大することにより、土作りや排水対策、雑草防除等の作業に手をかけられなくなる場合がある。  
また、播種等の適期作業が困難になる場合がある。

資料:大豆・麦の低収量要因解明に向けた調査 ((独)農業・食品産業技術総合研究機構)

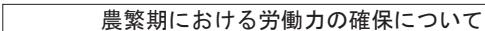
中国科学院植物研究所植物学大讲堂-植物学大讲堂-中国科学院植物研究所

規模拡大を達成した事例では、作業の省力化や雇用による労働力の

資料:第39回(H26.4.22)農科・農業・農村政策審議会企画部会資料



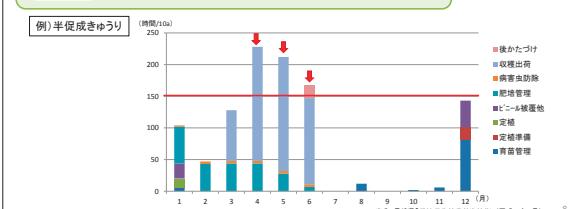
資料：平成22年度農業法人等

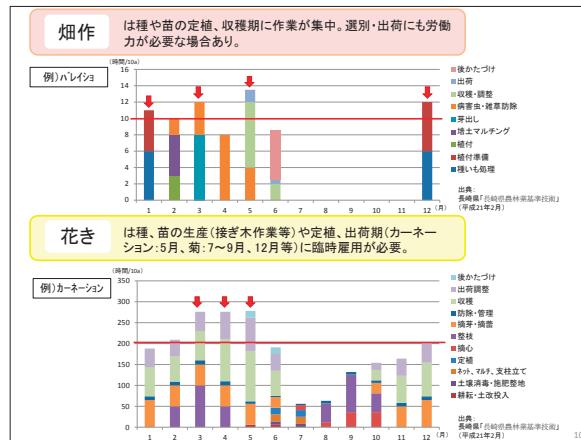
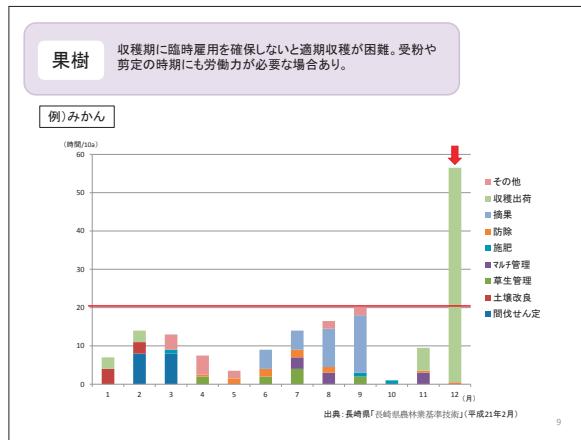


○経営規模や作目の拡大を図るために、定植期や収穫期等に一時的に必要となる労働力の確保が重要

#### 作目別の一時的な労働力確保の必要性

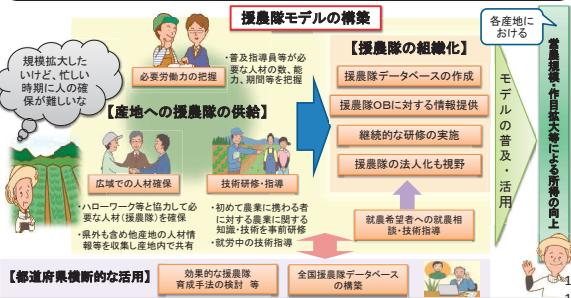
**野菜** 苗の定植や収穫期に臨時雇用が必要。収穫期には、収穫作業のみならず、出荷調製のための作業も発生。





## 援農隊マッチング支援事業

- 規模拡大などを図る上で、定植期や収穫期等に一時に必要となる労働力を確保することが重要
  - 農村地域では、高齢化や過疎化の進行により、必要な人材の確保が困難
  - 労働力の不足する農家等に必要な人材を円滑に供給するため、地域で援農隊を結成し、継続的にその活用・育成を行なう農業隊をモデルを構築



## 援農隊マッチング支援事業 実施主体



平成26年度農林水産省  
援農隊マッチング支援事業

## 第1回全国会議 【第1部】キックオフミーティング

## 援農隊の可能性について

食と農研究所 代表 加藤 寛昭  
NPO法人 南アルプスファームフィールドトリップ 理事長 小野 隆一  
NPO法人 生涯の地域活動支援の会 アツマールぎふ 理事長 池田 浩一  
西宇和農業協同組合 営農指導部 課長 菊池 文雄  
(八西地域農業振興協議会)

# 特定非営利活動法人 南アルプスファームフィールド トリップ

## 山梨県南アルプス地域

# 特定非営利活動法人 生涯の地域活動支援の会 アツマールぎふ

(岐阜県東濃地域)



平成26年度農林水産省  
援農隊マッチング支援事業

# 第1回全国会議

## 【第2部】事業推進セミナー

# 地区推進事業について

## 特定非営利活動法人 ほかけ

## 北海道平取町地域

26

農業生産法人  
株式会社あすファーム松島

宮城県松島町

28

## 相農えん有限責任事業組合

## 千葉県柏地域

七

～ 第二期生募集～  
農業に興味のある方、活動的な方、自然が好きな方、  
ライフスタイルの中に「畑」を考えていませんか?  
18歳以上の方 男女問わず募集です!  
お気軽にお問い合わせください  
\*問い合わせ先: 柏農えん LLP 事務局

長野県

長野県

33

特定非営利活動法人  
南アルプスファームフィールド  
トリップ  
山梨県南アルプス地域

## 山梨県南アルプス地域

35

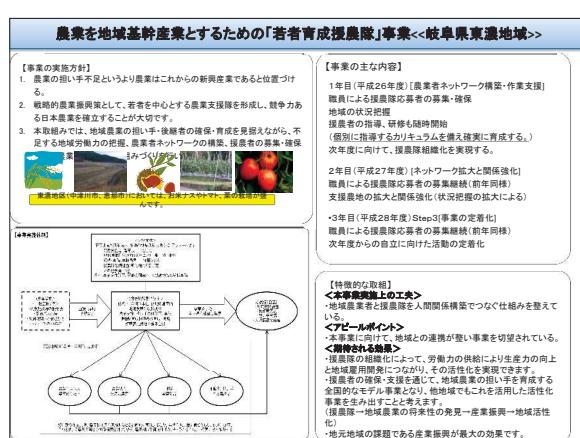
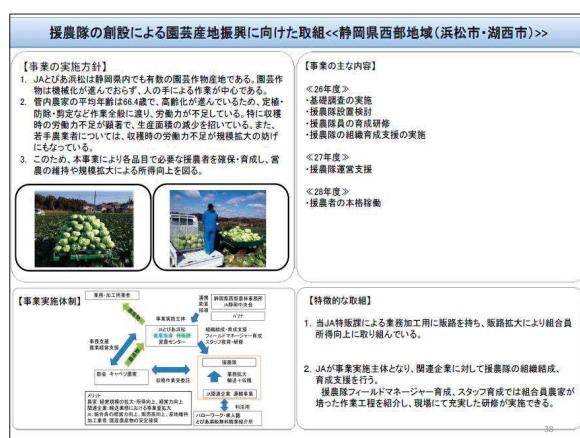
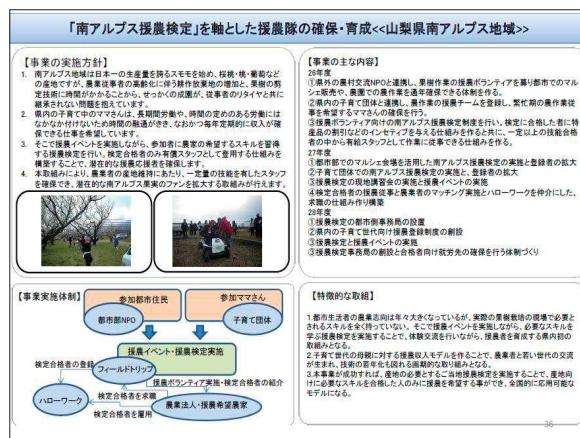
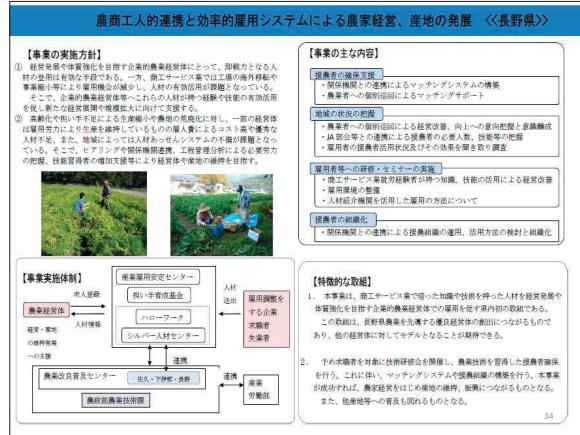
## とぴあ浜松農業協同組合

## 静岡県西部地域(浜松市・西湖市)

32

# 特定非営利活動法人 生涯の地域活動支援の会 アソニー

岐阜県東濃地域



**特定非営利活動法人  
生涯の地域活動支援の会  
アツマールぎふ**

Since 2007.9.11～  
活動分野  
特定非営利活動全般

発表者 理事長 池田浩一

**アツマールぎふの活動目的**  
生涯の地域活動の支援をすることで、地域の活力を引き出し、元気な地域を応援することで、広く社会に貢献します。  
（岐阜県生涯学習コーディネーターの集団）

本部・川辺町  
美濃加茂市民マーニ  
ナル運営「生活就職  
地域での相談所」  
平成20年度

県立大学連携事業「地  
域教育リブローカー  
平成20年度～現在

西濃支部  
安八町  
安八町パソコン  
教室支援  
平成20年度～

県立大学連携事業「地  
域教育リブローカー  
平成20年度～現在

大垣市  
ITサポート  
平成20年度～

西濃支部  
養老町  
文科省・文化伝  
統事業「子ども茶  
道教室」  
平成20年度～

**地域活動交流会**

設立時の活動内容

HPでの情報発信

**地域活動の実施主体としてのテーマの絞り込み  
「青少年健全育成と環境共生社会教育の融合による地域人材育成へ」**

**青少年健全育成の活動**

**岐阜大学との連携事業  
H20～23年度  
「大学、地域、学校による  
地域教育力向上プロジェクト」**

**陶芸教室における作品制作  
陶芸技術の伝承と製作体験(十六銀行やショッピングセンターで展示)  
体力測定の実施(岐阜大学教育学部研究事業)  
正規の測定方法で正確な体力測定を実施し、全国平均を基に研究**

**プロジェクトの内容**

- ・軽スポーツ・外遊びなどの指導による小学生の基礎体力向上
- ・キンボール・鬼ごっこ・ひょうたん鬼などを教育学部の学生たちと実践
- ・陶芸教室における作品制作
- ・体力測定の実施(岐阜大学教育学部研究事業)
- ・正規の測定方法で正確な体力測定を実施し、全国平均を基に研究

**岐阜県青少年健全育成推進活動として、県知事表彰を受ける  
→平成27年度までに、岐阜市小中学校全校でコミュニティースクール施行の先駆け事例**

**地域活動の実施主体としてのテーマの絞り込み  
「青少年健全育成と環境共生社会教育の融合による地域人材育成へ」**

**地域農業人材育成から環境共生社会教育との融合**

**平成22年8月  
苗木津戸区で地元説明会を実施し、若者の就農による地域人材育成  
計画を提案し、6軒の農家から賛同  
平成23年度  
ひきこもりの若者3人が就農体験にて社会復帰を目指す活動実施  
1名が地元産業の企業に就職→現在3人就業中  
平成24年5月  
中津川市新規就農人材育成事業受託1名の新規就農人材を育成**

**中津川市苗木津戸区を中心に、人と農地プランを展開し、6次産業化による  
新産業創造によって、若者の地域回帰を目指す活動を中心に展開します。**

**平成25年度・岐阜県農村振興課より「田舎ビジネス創出モデル事業」受託**

田舎で遊ぶ  
・暮らし体験ツアー

田舎で学ぶ  
・環境共生学習

田舎で貢献  
・農業ヘルパー

田舎で暮らす  
・空き家利活用

**平成26年度のビジネス化を目指して、これらの事業を実施します。**

**中小学生とその家族を中心に田舎暮らしの魅力発信を実施し、若者に向けては地域の魅力や可能性を  
伝えて、地域人材として次代を担う志を抱いてもらえる取組みを考えます。**

**新時代の地域産業は環境学習から後継者育成にかかっている！**

**食べる産業創造**

**地域農山村**

**里山保全活動  
竹林・雑木林の資源**

**若い力が発送**

**自然体験・農村体験**

**自然体験学習基地**

**安心・安全な豊かな農業生産物**

**ハウスのエネルギー**

**中津川市は、リニア新幹線の通過する未来の中継地点です。古くから中山道の宿場町として栄え、現在はモノづくりのまちでここには、豊かな自然との共生社会が今も残っています。しかし、こうした伝統が一つの技術であるとすれば、高齢化する地域住民はまさにこうした技術系統を今行うべきです。**

**地域の終モデル**

**NPO法人 生涯の地域活動支援の会  
(中山間地域の振興に関する活動)**

**①いきいき活動者ネットワーク事業**  
出向かない農産物の発送、集配  
農業指導等による世代間交流  
健康ラボの情報交換  
ええといい、助け合いネットの構築

**女性・若者**  
地域の高齢者支援組織構築

**②一人暮らし高齢者、要介護者支援**  
女性・若者元気な高齢者で、地域の情報収集  
要介護一人暮らし高齢者

**③地区活性化プロジェクト**  
若者と元気な高齢者で、地域の未来を担う農業の6次産業化を目指す  
・技術革新、研究事業  
農地整備による計画農業や植物工場などの経営による産業化

**要介護一人暮らし高齢者**

**④若い力の活用の場創造**  
地域の未来を創造する  
・雇用の創造

**リニア新幹線  
移動施術  
文化伝承**

**世代間交流  
文化伝承**

**地産地消の店  
中津川市独自の  
おもてなし産業化**

**海外市場  
観光産業**

**中津川市独自の  
おもてなし産業化**

**特定非営利活動法人  
農業マッチ勉強会**

大阪府羽曳野地域

**授農者の農業技術向上と農家の作業負担低減<大阪府羽曳野地域>**

**【事業の実施方針】**

1. 大阪府の羽曳野市は、ぶどうやイチジク等果樹の産地であるが、生産農家の高齢化により農家数が減少している状況である。また、大阪府民へ地域としての認知度が低い。
2. 稲作された農業を支援するにても、授農希望者を募り、農業技術指導を行なう。また、交流イベントを行なうことで、地域活性化にもつなげる。
3. さらに、この取り組みを各地域に広め授農者クラブを作り、データベース化することで、農家の希望に合った人材を派遣できる仕組みをつくる。
4. これまでの取り組みにより、授農者の農業技術を高め農業に参入しやすくなる。また、農家のネットワークを強化する。

**【事業の主な内容】**

26年度

- ・地盤の現状把握(羽曳野市)
- ・定期的なセミナー開催(授農者を募集)
- ・授農希望者の会の開催(地域の農家を募集)
- ・農業主体による技術指導
- ・協力農家の支援
- ・交流イベントを開催

**27年度**

- ・授農者のデータベース整理、スキルアップ研修の実施
- ・授農園場の確保(農地の利用権取得)
- ・ホームページ上で授農マッチングできるシステム開発・運営

**28年度**

- ・授農マッチングシステムの運営とバージョンアップ
- ・授農提供オフィスの拡大
- ・授農経験による体験セミナー(クルートで授農者クラブの拡大)

**【特徴的な取組】**

1. 本事業の内容はNPO法人がその組織力を利用し、地域の農家の活性化に寄与する仕組みである。
2. 大阪府農業技術指導員による授農者を対象としたセミナーを開催する。その場で利活用して、授農者を募集する。
3. 並行して、地域限定の農家向け勉強会を開催する。その場で利用して技術指導する農家と、授農者を受け入れる農家を募集する。
4. 農家、一般参加者ともに、当事者の目的をよく理解している人が運営を行なう。また、一人でつながる農業が可能である。
5. 当セミナーで参加される方は、年齢層が若く、今後の農業を担える人材である。

## NPO法人農楽マッチ勉強会

## 毎月大阪梅田で無料セミナー



## 農家向け勉強会

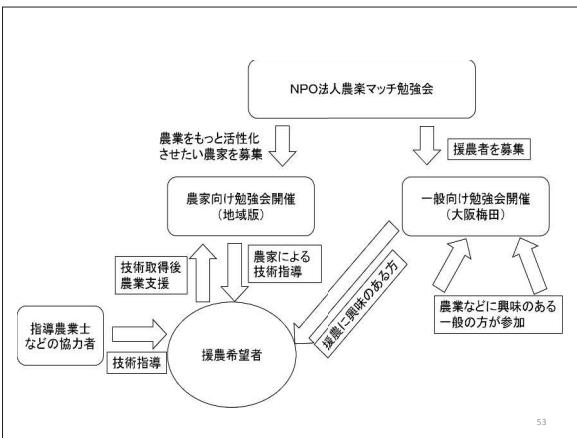
## 農產物料理體驗

## 農作業體驗



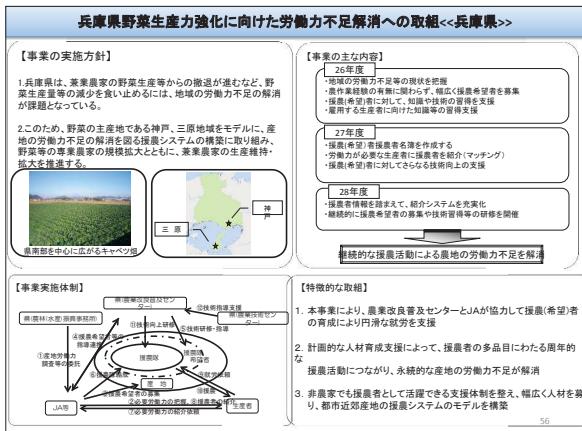
## 理事紹介

理事長 ナー)	山本文則 (中小企業診断士・6次産業化プラン ナー)
副理事長	米虫節夫 (元近畿大学農学部教授・食品安全ネットワーク初代会 長)
副理事長	岸克行 (中小企業診断士)
理事	十河一浩 (コンサルタント)
理事	村上弘晃 (会社員)
理事	堂山一成 (中小企業診断士・野菜ソムリエ)
監事	黒瀬英昭 (弁護士)



## スケジュール

- 1年目(平成26年)  
地域の調査 農家・援農者を募集
  - 2年目(平成27年)  
援農者の研修 援農者のデータベース化
  - 3年目(平成28年)  
WFB上でマッチングできるシステム開発  
援農エリアの拡大



## 徳島県

徳島県板野郡野村地域(鳴門・藍住農業支援センター)  
徳島県阿南・那賀地域(阿南農業支援センター)  
徳島県神山地域(徳島農業支援センター)

授農隊の創設によるニンジン地盤基盤強化に向けた取組<徳島県板野郡地域>

【事例の実施方針】

1. 人口減少で困窮する農業者を救済するブランド品目、全国の約4000品目で販売している。
2. 豊富な人材と機械で大型化し、収穫から貯蔵、選別までの機械化・体化を確立していることから、機械化を利用した規模拡大が可能である。
3. このため規模の大きい農業では、機械化や収穫技術、一時的・多くの労働者を雇用するための労働力確保が課題である。
4. 今後、規模拡大を進めていくために、その經營に見合った労働力を確保していく必要がある。
5. 豊富な労働力を確保するため、ハローワーク等の労働機関と連携を図り、採用者の就労技術研修を行ってから生産者へ配置し、労働力を支援していく。また、採用者は紙面化して採用情報を放送する。



【事例の主な内容】

ハローワーク、シルバー人材センター、農業会議等との事業扶助会の開催、モチベーション向上会議、労働力確保。

・農業者に対する事業説明会、研究会の開催

・機械化による労働力確保

・採用者の募集、技術研修会カリキュラム作成、実施

【方針】

ハローワーク、シルバー人材センター、農業会議等との採用マッチング支援事業連絡会を設立する。

・農業者に対する事業説明会、研究会の開催

・機械化による労働力確保

・採用者の募集、採用者に対する説明会

【2年年度】

- ・採用マッチング支援事業連絡会の構成団体
- ・農業会議センター
- ・JA
- ・シルバー人材センター
- ・人材紹介会社
- ・農業機械化推進会議
- ・農業会議連絡会
- ・農業会議連絡会
- ・農業会議連絡会

【特徴的な取組】

1. 本事例の内容は、採用者の確保に向けて普及指導員が採用者を育成する県内の組織によるものとなる。
2. 本事例の特徴は、採用者の確保が課題が解消され、経営に見合った労働力を確保するニンジン地盤基盤強化につながる。また、採用のランプ生地への波及効果が期待される。

## 実施方針

- ①組む会の労力不足を解消するため、町・JA、農業支援センターなどが連携し、県下初となる農業生産扶助組織研究所「JAあなん農業お助けセンター」の運営を平成23年8月より始動しているが、新たな人材確保への取り組みが課題となっている。
- ②本事業を活用して公募エリートを拡大し、新たな人材確保への取り組みを推進するとともに、産地エリートを1町から1市・町に拡大を図り、阿南・那賀地域の「労力サポートシステム」の構築に向けた取り組みを推進する

## 事業の主な内容

**平成26年度**

・ハーフロー等を通じた新たな人材確保への支援  
・1町から1市・町への支援拡大による効率化  
・採用組織化への検討

**平成27年度**

・ハーフロー等を通じた新たな人材確保への支援  
・産地エリート拡大による労力サポートシステムの構築  
・採用組織化の推進

**平成28年度**

・ハーフロー等を通じた新たな人材確保への支援  
・産地エリート拡大による労力サポートシステムの構築  
・採用組織化の推進



阿南市立農業生産扶助組織研究所



JAあなん農業お助けセンター



JAあなん農業お助けセンター



ヒマワリ



スイカ



カーネ



ヒマワリ



スイカ



カーネ



ヒマワリ



スイカ



カーネ



ヒマワリ



スイカ



カーネ



ヒマワリ



スイカ



カーネ



ヒマワリ



スイカ



カーネ



ヒマワリ



スイカ



カーネ



ヒマワリ



スイカ



カーネ



ヒマワリ



スイカ



カーネ



ヒマワリ



スイカ



カーネ



ヒマワリ



スイカ



カーネ



ヒマワリ



スイカ



カーネ



ヒマワリ



スイカ



カーネ



ヒマワリ



スイカ



カーネ



ヒマワリ



スイカ



カーネ



ヒマワリ



スイカ



カーネ



ヒマワリ



スイカ



カーネ



ヒマワリ



スイカ



カーネ



ヒマワリ



スイカ



カーネ



ヒマワリ



スイカ



カーネ



ヒマワリ



スイカ



カーネ

**未来のすだち産地づくり支援<<徳島県神山山地>>**

**【事業の実施方針】**

神山町の特長であるสダチは、栽培、換葉、施肥、収穫作業が短期間に集中するため多くの人手を必要とする。これらの作業は高い技術と効率性を求められるため、これまででは多くの生産者が地域内で作業に慣れた者を雇入していたが、地域全体の高齢化が進む中で人手不足が進みつつある。そこで、地域内外から広く人材を募集するため開設園地での運営を行い、募集方法や研修方法、募集者の派遣方法等について検討を行った。



収穫作業



スダチの果実

**【事業の主な内容】**

地域の状況の把握  
すでに雇用しているスダチ農家の現状について、人數、確保のし易さ等具体的な調査を行う。

**採農者の育成支援**  
神山町採農マッチング推進会議を開催し、人材の募集方法等について検討を行っており、人材募集のためのパンフレットを作成し配布する。

**採農者等への研修・セミナー等の実施**  
スダチ作業の講習会を開催する。

**採農家の職権化**  
採農者の職権化方法等の方法を確立し、募集組織の検討、採農隊の組織化の検討を行った。

**【事業実施体制】**

徳島県農業支援センター


  
採農者の確保、農業者とのマッチング方法の検討等

**【特徴的な取組】**

スダチ作業の実地で、換葉・施肥は直夏に行うため特に人手が集まりにくい。本事業で人材を確保することができるようになれば、スダチの安定的な生産に貢献できると考える。

神山町、JA名西郡、神山町社会福報協議会、ハローワーク徳島

# 八西地域農業振興協議会

# 西宇和みかん担い手・援農システム <愛媛県八西地域>

【事業の実施方針】

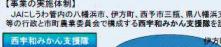
1. 人材育成：愛媛県のみかん産業を支えるブランド確立ではないに、担い手不足や農業生産の原動力確保が難しい。
2. このため、接種園芸・園芸支援事業を活用し、11～12月の接種園芸事業と、1月～4月の園芸支援事業を実施する。
3. 从属農業生産者団体、農業生産者団体、ハーフワーク雇用事業員等多様な雇用で構成される職員は接種園芸として組織化し、農業生産に必要な農業生産的・経営的・技術的・経営的支援を実施する。
4. システムの構築・運営・維持により、愛媛県農業の維持だけでなく、耕作放牧地地主や販売業者等はともどり、生産者との連携により日本一のみかん生産地を次世代へ継承できる。



【事業の実施体制】

JAIにしうわき市内八幡浜市、伊方町、西市三瓶、南八幡浜支局等の行政と市農業委員会で構成する西宇和みかん支援團は設立

西宇和みかん支援團



JAIにしうわき市内八幡浜市

八幡浜市農業生産者団

南八幡浜支局

八幡浜市農業生産者団

西市三瓶農業生産者団

西市三瓶農業生産者団

【事業の主な内容】

26年度

労働力調査(必要な労働力・運営状況)  
接種園芸事業の実施(接種園芸事業の実施)  
各労働力調査事業への参加(労働力・交通費・宿泊の検討)  
接種園芸技術者研修会、各種研修会等への参加  
農業生産技術者研修会の実施

27年度

接種園芸の実施(接種園芸実施)  
接種園芸技術者研修会の実施(接種園芸技術者研修会の実施)  
各労働力調査事業への参加(労働力・交通費・宿泊の検討)  
各種研修会等、大学校等への説明会開催

28年度

接種園芸の実施(接種園芸実施)  
各労働力調査事業への参加(労働力・交通費・宿泊の検討)  
各種研修会等、大学校等への説明会開催  
農業生産技術者研修会の実施

【特徴的な取り組み】

事業の内容は、地域連携が一體となって接種園芸後に取り組む東洋の取り組みを中心とする。

接種園芸の実施は、主にスルガ農業と農業生産者団を組織することで、事業終了後も継続的・連続的農業生産に取り組む。

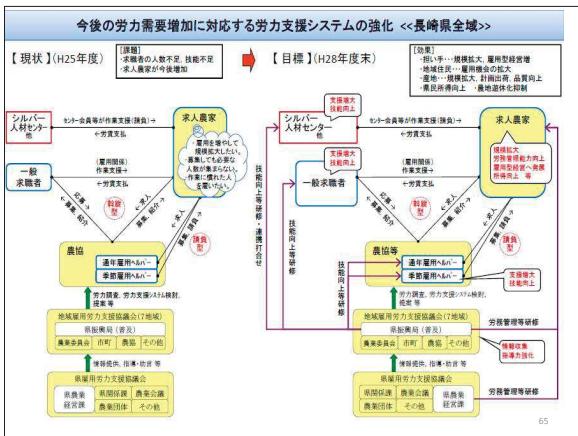
接種園芸からの接種園芸後は、市町村市部からも確保されることとなる。

接種園芸の実施に伴う費用は、特に農業生産者団で、他産業への競争力を奪う。

接種園芸や農業生産者団等を対象に、向けて取り組んだ取組がなく、全国規模のプロジェクトとなるものとある中で本事業を実施すること、全国及び県内外農業生産地のモチベーションが

# 長崎県

今後の労力需要增加に対応する労力支援システムの強化 <長崎県全域>	
<p>【事業の実施方針】</p> <p>○長崎県は、農業の減少と高齢化が進展し、耕作放棄地率が高い、平成24年度で県農業・園芸生産額、関係団体が連携しながら、認定農業者等が規制緩和による労力を必要とする時に、必要な賃貸保証できる「地域内労力支援システム」(賃貸方式、職業紹介方式)を実現するため、事業実施方針を策定する。</p> <p>○しかし、実際の現状は、豚病害の影響で、畜産業者による人手増加が実現する結果として、現在はウシさんで困苦がある。そのため、シルバーパートナーや他の労力支援団体との連携を図り、農業の賃貸と経営レベルの向上、農業者の労務管理等で問題を上手に取り組む。</p> <p>○地域別に、地域固有で、関係機関、団体と情報共有および協議を行なうが、主に、市町の経営規模拡大、雇用経営資源の増加、地域の雇用促進策、新規利害関係者、産地強化、県民意向等で向きあう実現している。</p>	<p>【事業の主な内容】</p> <p>【2年目】</p> <p>○地力の労力需要調査（時期別、主要品目別、作業内容別の需要量）</p> <p>○結果の分析と地力労力支援システムの検討、提言</p> <p>○効率的な人材確保と賃貸保証方法の検討、提言</p> <p>○農業者に対する労務管理の実践的実証研究</p> <p>○シルバーパートナーや他の労力支援団体との協議</p> <p>○賃農業者の組織化、賃借農への情報提供ルートの確立</p> <p>【3年目】</p> <p>○2年間の取組を継続</p> <p>○労務管理と賃農業者的人数・技能レベルとのミスマッチの程度を把握</p> <p>○必要に応じて、地域固有の分野(畜産等)で、障がい者労働支援団、他産業の企業や団体等との協議、連携を検討</p> <p>【2年8月】</p> <p>○2年間の取組を継続</p> <p>○労務管理と供給のミスマッチの程度を把握し、取組の検証と次年度以降の活動について関係機関・団体等と検討</p> <p>【特待金の実証】</p> <p>○地力の労力需要調査が実証し、既に手への施肥量、耕作と施肥拡大率、費用効率の構造が今後強化することに対応する取組である。</p> <p>○県下全域をカバーし、各地域固有の情報交換を行い、切磋琢磨しながら各地域の実情に適した労力調整の仕組みをレベルアップしていくこうとする取組である。</p>
<p>【事業実施体制】</p> <p>別紙のとおり</p>	<p>(参考) ばんしょの耕種地</p>



平成26年度農林水産省  
援農隊マッチング支援事業  
第1回全国会議  
【第2部】事業推進セミナー

## 農業の労務管理のポイント

## キリン社会保険労務士事務所 所長 入来院 重宏

## ◆平成26年度 援農隊マッチング支援事業 講演テキスト

平成 26 年 7 月 4 日  
平成 26 年度 派農隊マッチング支援事業『第 1 回全国会議』講演テキスト

## 「農業の労務管理のポイント」

特定社会保険労務士 入来院 重宏

## 目 次

I	雇用と責任	
1.	業務災害と補償責任 · · · · ·	2
2.	安全に対する配慮 · · · · ·	2
3.	従業員の生活保障 · · · · ·	3
II	労務管理に必要な知識	
1.	農業の業務管理 · · · · ·	4
2.	労働基準法の基礎知識 · · · · ·	6
3.	従業員に関する書類 · · · · ·	10
4.	労働契約 · · · · ·	11
5.	安全衛生の基礎教育 · · · · ·	17
6.	就業規則 · · · · ·	18
7.	賃金 · · · · ·	21
8.	労働時間・休憩・休日 · · · · ·	31
9.	休暇 · · · · ·	40
10.	年少者等・女性・育児・介護休業法 · · · · ·	44
11.	解雇 · · · · ·	48
12.	災害補償義務 · · · · ·	51
III	安全衛生と健康管理	
1.	安全配慮義務 · · · · ·	53
2.	労働安全衛生法と安全管理体制 · · · · ·	54
3.	健康診断 · · · · ·	56
4.	農作業事故 · · · · ·	58
5.	傷害保険 · · · · ·	62
IV	労働保険と社会保険の概要	
1.	労働・社会保険の適用 · · · · ·	64
2.	労災保険 · · · · ·	67
3.	雇用保険制度 · · · · ·	73
4.	社会保険 · · · · ·	76
V	資料等	
1.	労働・社会保険の手続き · · · · ·	80
2.	雇用契約書 · · · · ·	85
3.	労働者登録簿 · · · · ·	86
4.	勤務状況報告書 · · · · ·	87
5.	賃金台帳 · · · · ·	88
6.	就業規則見習書 · · · · ·	89
7.	就業規則(変更)届 · · · · ·	90
8.	解雇予告通知書 · · · · ·	91

## ブロック会議 開催報告

### 開催地域:大阪

日 程	11月14日(金)
時 間	13:30~16:30
会 場	大阪・パソナグループビル 4階 研修室4A
会場住所	大阪府大阪市中央区淡路町4-2-15

### 開催地域:長崎

日 程	11月28日(金)
時 間	13:30~16:30
会 場	長崎西彼農業協同組合(JA長崎せいひ) 本店 5階大会議室502
会場住所	長崎県長崎市元船町5-1

### 開催地域:東京

日 程	12月3日(水)
時 間	13:30~16:30
会 場	パソナグループ本部 1階 多目的ホールC
会場住所	東京都千代田区大手町2-6-4

### 開催地域:仙台

日 程	12月11日(木)
時 間	13:30~16:30
会 場	TKP仙台カンファレンスセンター 4階 ホール4A
会場住所	宮城県仙台市青葉区花京院1丁目2-3 ソララガーデン

### プログラム案

- 13:00 開場・受付開始
- 13:30 ブロック会議開会  
開会挨拶  
プログラム説明
- 13:40 参加者の紹介（自己紹介）
- 14:00 全国推進からの報告  
(ホームページ、チラシ、各種フォーマット、ガイドブック等について)
- 14:20 地区推進事業の報告（参加地域以外の状況を中心に）
- 14:50 グループワーク  
『援農隊を推進し産地活性化に結び付ける為に』  
①現状（課題、取り組）の共有・分析  
②課題解決策・事業の推進の検討  
③援農隊の仕組みを活用した産地活性化の方策の検討
- 16:20 閉会の挨拶  
アンケート記入
- 16:30 閉会の挨拶
- 17:00 開場退出

## ブロック会議 大阪(実施状況・アンケート結果)

### 平成26年度 援農隊マッチング支援事業 ブロック会議 参加者名簿

【開催地域】 大阪

【日 程】 11月14日 (金)

【時 間】 13:30~16:30 (受付 13:00~)

【会 場】 大阪・パソナグループビル 4階 研修室4A

【会場住所】 大阪府大阪市中央区淡路町4-2-15

講師(検討委員):2名

分野	所属	講師名
全国的な農業・食品業の支援	食と農研究所 代表	加藤 寛昭(座長)
全国的な農業・食品業の支援	株式会社K3ロジスティクス 代表取締役	四本 和臣

(敬称略)

農林水産省・農政局:7名

地区推進事業者:8名(NPO法人 アツマールぎふ、徳島県 阿南農業支援センター、とぴあ浜松農業協同組合 営農指導課、NPO法人農楽マッチ勉強会、兵庫県)

### 実施状況



## アンケート結果

### 問1 会議にはどのような目的で参加しましたか？

- 他の地区は今どのように取り組んでおられるかを聞いて、自分たちの組織に活かしていくために参加しました。
- 他の地区における取り組み情報の収集
- 効果的な事業の推進方法
- 援農隊事業について、他のブロックの方々の取り組み等について勉強させていただきたいと思いました。色々な方面からのアプローチがあると思います。
- 各地での活動の課題を共有し、当地とのギャップや今まで気づいてなかった新たな課題を明らかにする
- 情報交換
- 各地域の取り組みについて、自らの活動の役に立てたく思います
- よばれて
- 援農事業に取組む各団体との情報交換
- 事業の展開状況を確認するため（課題、それに対する対策等）

### 問2 会議ではどのようなことを得ることができましたか？

- 農協さんの仕事内容がわかりやすく、今後は地元のJAさんと連携していきたいです。
- 課題がみなさん同じものばかりだったので、自分たちも課題解決に向けていっそう努力をしようと思いました。
- 各地区推進事業体の課題やその方策について、勉強になりました。今後の取り組みの参考にしていきたいと思います。
- 人と人との交流、支援する方される方もですが、マッチングさせていただく私たちも足を運んで現状を知る事が大切と感じました。
- 事業実地体の方が「『援農隊』とは何か、何をもって援農隊の組織化といえるのか。」ということを考えていること。(理解できていないこと=難しい)きちんと説明ができるといけないと感じた。
- 援農隊の継続的な活動に向けた課題を新たに把握し、今後の活動に反映させていく。
- 具体的に皆さんのが活動状況を知ることができ、自分たちの活動に役立つ内容が多々ありました。
- 色々な事業者がいると思った
- 課題の把握と解決策 今後の事業のすすめ方のヒント
- 浜松とびあ:実際に取り組んでいる人からの活しで具体であった。①行政・JAの関係者だけでなく受け入側の農参加させている。②援農隊事業をいかに自立させるかが課題 事業展開に関しての向きであるか、考えられる対策はどんなものがあるのかを聞くことができた

### 問3 援農隊マッチング支援事業を進めていく上でどのような支援があるといいですか？

- とにかく1つのNPO団体でできることよりも、「国が支援」していることの方が地域の人の信頼度がかなり高く、国としてPRを進めていただければ、それに関連づけていけると思います。
- 現地研修の実施。
- この様な交流も含めて他の地区の方の取り組みの成果等をお知らせいただきたいです。
- 全国的な活動。さらなる共有。現地を見に行けるとさらにイメージしやすい。
- 個別の問題を解決してもらう為、適時個別の指導を頂ければ幸いです。
- 人材についての法的な制約などがある場合がありますのでそういう情報が交換できればよい
- 農家の個別情報(作物別)
- 全国で同様の事業に取り組む団体の情報案内
- 援農者向けの宿泊施設…域内に宿泊施設がなく他地区からの援農者を送り込めない為。

### 問4 感想・ご要望など

- 先のことを真剣に考えておられる方々とお話しできてとても勉強になりました。
- 取り組みへの課題や方策について共有できました。
- はじめは何をするのか不安でしたが、他の地区の方々と話し合えて、大変参考になった。
- 今後の活動の継続と、参同者の増加、拡大を進めていきたいと思います。
- 自分のところの取り組みが遅れていると感じた
- ありがとうございました。
- 今回の討議内容を他の地域の人に聞かせたい(情報共有)

# ブロック会議 長崎(実施状況・アンケート結果)

## 平成26年度 援農隊マッチング支援事業 ブロック会議 参加者名簿

- 【開催地域】 長崎  
 【日 程】 11月28日(金)  
 【時 間】 13:30~16:30(受付13:00~)  
 【会 場】 長崎西彼農業協同組合(JA長崎せいひ)本店5階 大会議室502  
 【会場住所】 長崎県長崎市元船町5-1

講師(検討委員):2名

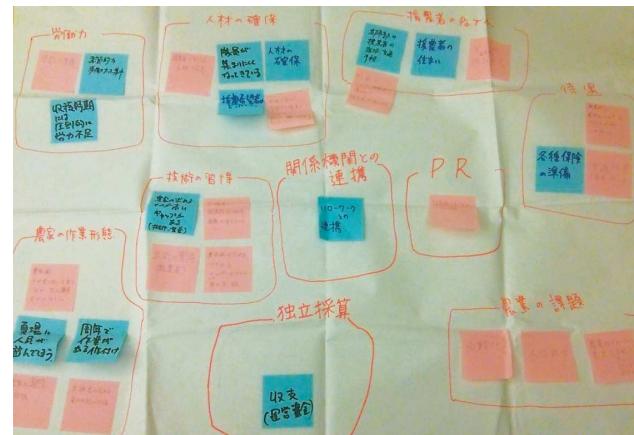
分野	所属	講師名
全国的な農業・食品業の支援	食と農研究所 代表	加藤 寛昭(座長)
全国的な農業・食品業の支援	株式会社K3ロジスティクス 代表取締役	四本 和臣

(敬称略)

農林水産省・農政局:2名

地区推進事業者、関係者:28名(JAにしうわ 岩農指導部農家支援課、愛媛県 南予地方局八幡浜支局地域農業室、  
 愛媛県 南予地方局八幡浜支局、沖縄畑人くらぶ、徳島県 鳴門藍住農業支援センター、  
 徳島県 徳島農業支援センター、長崎県農業協同組合中央会、長崎西彼農業協同組合、  
 長崎県央農業協同組合、島原雲仙農業協同組合、ごとう農業協同組合、壱岐市農業協同組合、  
 長崎県県央振興局、長崎県島原振興局、長崎県北振興局、長崎県五島振興局、長崎県壱岐振興局、  
 長崎県対馬振興局、長崎県農業経営課)

## 実施状況





## アンケート結果

### 問1 会議にはどのような目的で参加しましたか？

- 島原地域で労力支援の方法について検討していますので有益情報を得たいと思って参加しました。
- 援農隊マッチング支援事業について他の所の意見を聞きにきた。
- 労力支援の事例情報を得たかった。
- 文書で案内があり、参加をすすめられてから
- 他県の実施状況を知るため
- 労力支援事業に関する情報収集。
- // (労力支援に関する)課題解決のヒントにしたい。
- 他の地区の実態を知るため
- 園芸部門で労力システムが新たに始動する中(11/1～)、他県、他地区の先進事例をぜひ参考にしたいと思ったため。
- 他地域の様子、取りくみについて学びたかったので。
- 労力支援事業を行う上で、今後の参考と自分の勉強のため。
- 他県の事例確認(他県の課題にどのように対応しているのか)
- 労力(外部)確保に向けた新たな取組み等に関する知見の取得
- 事例収集
- 労力確保対策としてシルバー人材センターとの連携を計画したが、労力としては不十分、他の確保対策を知るために情報収集の目的で参加しました。
- 事業をすすめる上での課題解決の見本とさせて頂きたい、思い。
- 担当地域における労力支援の在り方、手法等の参考とするため
- マッチング支援事業に関する業務をしているだけ、他県の取り組みを勉強したくて
- 他県の優良事例情報の収集、他県及びパソナの援農関連情報の収集
- 参考にできる他県の優良事例情報の収集、他県及びパソナの援農関連情報の収集
- 参考にできる他県の優良事例情報の収集、他県及びパソナの援農関連情報の収集

### 問2 会議ではどのようなことを得ることができましたか？

- 他県の取り組みが参考になりました。ボランティアなど
- アルバイトの利用、空家の利用など色々と勉強になりました。
- 全国の取組み事例の情報
- 九州以外の人の意見を聞く事が出来た
- 直面している内容はどこも同じ内容であることが確認できました
- ボランティアや学生を活用する手法と課題について学べた
- 他地区における問題点・課題点
- 県内ではまだ事例のない他県の取りくみがとても参考になり、そこで現状の話を実際に聞く事ができてよかったです。
- 色々と有意義でした。
- 他地域の課題に共通点があって勉強になった。
- 他県の事例、特にアルバイト、ボランティア活用事例。
- 自分と同じ意見や、その他のいろんな意見を聞く事で、広い視野で今後の事、仕事に役立てればと思う。
- 課題、問題に対する体系立った整理が、まだまだ必要だということを再認識
- 労力の確保に向けた情報発信の手法、確保の手段の取組 など
- PRが必要

- 他地域の取り組み事例アルバイトをシャトルバスで運んでいるなど 次年取り組みを考えている活動を実際に行ってい  
る地域があった。
- 他地区の事例
- 援農者への必要な支援、PRの重要性等
- 同じような課題での悩み、様々な対策をされているので、活動のヒントをいただけた
- 援農者確保方法等の諸課題の共有（解決策のひらめきには至らず）
- 地区ごとに事業の進捗状況が違い、当面の課題も異なっているため、西宇和で課題となっている宿泊施設関連で得る情報  
がなかった。
- グループワークによって、援農に対する関係者の考え方の違い、他組織の活動事例の収集

### 問3 援農隊マッチング支援事業を進めていく上でどのような支援があるといいですか？

- 継続した事業 行政主導の整備事業
- 農家の受け入れ体制
- 働き手が求人情報を得る仕組み
- 求人の仕方を掘り下げる必要がある
- 行政からの支援（補助金）
- 事業運営にかかるコストと農家が支払える利用料とのギャップに対する一部助成
- 県の事業のけいぞく
- 雇用受け入れの環境整備に対する支援 例) 援農者の交通、宿泊費、宿泊や地元店で使えるクーポン券 住み込み受入農家の募集チラシ 空き家リスト作成……
- PRをもっとしてほしいです。
- Webサイト、楽しみです。
- 農作業のきついイメージふっしょく。受入側の安全管理体制の取組例紹介
- 支援者を集めるための施設、農家サイドの待遇の見直しが必要なため、支援者を募集した上で意見交換会。
- 請負方式でやる場合の農家との共同作業が不可という労働法上の問題クリア
- 環境整備に向けた支援（施設整備に対する一部助成など）
- 体制づくり
- 補助対象範囲の拡大。今の事業では方針を決めるまでのサポートはあるが、実際に取り組もうとすると全て自己負担となる。軌道に乗るまでは試行錯誤をくり返すことになるので、方法が安定するまでの経費を補助対象としてほしい
- 今回のような情報交換
- 取り組みがうまくいっている集団の成功事例のホームページ等での紹介（取り組みでの重要ポイント）、失敗事例とその原因等含む）
- 視察先の紹介
- ちょっとした相談ができる機関等の設置
- 宿泊施設の整備
- システム運営に対する支援 農業以外の産業との連携
- 全国を行脚するアルバイトの組織化、データベース化、情報共有
- 事業取り組み地区のネットワークづくり
- パソコンによる全国の援農関係情報の開示
- セキュリティーを伴う援農者情報の共有

### 問4 感想・ご要望など

- 大変参考になりました。
- 大変勉強になりました。ありがとうございました。
- とても楽しかったです！
- ボランティアという話が出たが、ボランティアが事故にあった場合の責任の所在は？というように全国レベルでも法的な未整理部分が多い
- 他県のいろいろな事例を聞くことができました。ありがとうございました。
- 担当地域と同じような問題を持つ地域も多く、それでも様々な手法で積極的に継続されている点は参考になった。取り組めそうな可能性があるものについては関係機関とともに積極的に取り組んでいきたいと思った。
- グループワークの時間がもう少しほしかった。
- 大変勉強になりました。
- グループワークの時間が短く、討議も一つの課題に絞られ、限定的。グループに分かれても討議の内容がほとんど同じ。
- パソコンへの要望：事業取り組みに限らず援農者の情報等の共有ができる体制整備
- 事業に取り組んでいる地区ごとの特色ある取り組みを収集できる、事業の進捗状況や援農に対する考え方には差があるため、100%の回答がない



## ブロック会議 東京(実施状況・アンケート結果)

### 平成26年度 援農隊マッチング支援事業 ブロック会議 参加者名簿

【開催地域】 東京

【日 程】 12月3日 (水)

【時 間】 13:30~16:30 (受付 13:00~)

【会 場】 パソナグループ本部 1階多目的ホールC

【会場住所】 東京都千代田区大手町2-6-4

講師(検討委員):2名

分野	所属	講師名
	一般社団法人 村楽	東 大史
労務管理	キリン社会保険労務士事務所	入来院 重宏

(敬称略)

農林水産省・農政局:5名

地区推進事業者:5名(長野県 農政部農業技術課、徳島県 阿南農業支援センター、柏農えん有限責任事業組合、NPO法人南アルプスファームフィールドトリップ)

### 実施状況



### アンケート結果

#### 問1 会議にはどのような目的で参加しましたか？

- 阿南農業支援センターは「阿南那賀地域の労力サポートシステムの確立」をテーマに援農隊マッチング支援事業に取り組んでいる。ブロック会議には主担当者が大阪での会議に参加しているものの、より幅広い情報を得るために本ブロック会議(東京)に参加したもの
- 他地域の情報収集

#### 問2 会議ではどのようなことを得ることができましたか？

- 都市部では都市近郊での悩みがあることがよくわかりました。いい勉強になりました。
- 人材募集の難しさは、経済にある事を改めて実感した。

#### 問3 援農隊マッチング支援事業を進めていく上でどのような支援があるといいですか？

- 体験ボランティアの支援でしょうか？ 地域の農業理解促進支援が重要かと
- 講師の無償派遣など

#### 問4 感想・ご要望など

- 他の地域の方の声を聞くことがありがたかったです。
- もう少し実りのあるワークショップだとうれしい

## ブロック会議 仙台(実施状況・アンケート結果)

## 平成26年度 援農隊マッチング支援事業 ブロック会議 参加者名簿

【開催地域】 仙台

【日 程】 12月11日 (木)

【時 間】 13:30~16:30 (受付13:00~)

【会場】 TKP仙台カンファレンスセンター 4階 ホール4A

【会場住所】 宮城県仙台市青葉区花京院1丁目2-3 ソララガーデン

講師(檢討委員):2名

分野	所属	講師名
全国的な農業・食品業の支援	食と農研究所 代表	加藤 寛昭(座長)
全国的な組織化運営	東京大学農学生命科学研究科海洋アライアンス 特任研究員 株式会社アイファイ 代表取締役	千田 良仁

(敬称略)

農林水産省・農政局:3名

地区推進事業者、関係者：5名（NPO法人ほかげ、株式会社あすファーム松島、株式会社プロジェクト地域活性）

来年度参画検討自治体:7名(山形県農林水産部園芸農業推進課、山形県東根市経済部農林課農政係、山形県寒河江市農林課、株式会社ネクスト・レボリューション)

## 実施状況



## アンケート結果

### 問1 会議にはどのような目的で参加しましたか？

- 来年度以降、県内で事業申請を推めるにあたり、現在実地されている方々の状況を聞いてみたかったから
- 農繫期における労働力の確保が本市農業においても急務となっているため、本年事業の概要を実際に事業を行っている方々の声を聞けるということで参加しました。
- さくらんぼの収穫時期の人手不足が深刻なため、解決策として勉強したいと思い参加しました。
- 現在、募集マッチングの段階で課題が出ているため、まずは課題解決の糸口をつかみたいとの目的。
- 今後取り組むべき内容として農業の人材バンクを整備すべきと前々から考えていたため
- 現在直面している問題に対し、どのような解決策があるか他の人の意見を聞きつつ見つけたい
- 援農隊に対して、どのような課題があるのか、解決策があるのか学ぶために参加した。
- 自分たちだけではまだ見えていない課題等を、他エリアの状況等を聞きながら、整理したい。
- 先進的な取組についての情報収集
- 本事業の有効な活用方法
- さくらんぼの雇用確保に何かいいきっかけとなれば、と思い参加
- 事業についてのノウハウを研修するために参加
- 地区推進の事業主体として

### 問2 会議ではどのようなことを得ることができましたか？

- これまで気が付いていなかったことを、話しをしているうちに気付かせてもらえた。ワークショップで話ができたことは良かった。
- 松島町のあすファーム松島や、NPO法人ほかけなどつながりを持って今後何かあれば相談できると考えました。またターゲットのヒントを得ることができました。
- 大学生や自衛隊というターゲットも新たに加えたい。その他、将来の自立化に向けた課題等の共有。
- 今後事業展開するにあたっての心構えができました。
- 今後の課題を新たに見つけた
- 新たなターゲット層
- 見えていない新たな展開を見つけ出せた。ターゲット
- 取組の状況（他実施者）
- 本事業の活用できるツール
- 援農隊を募集するにあたっても、ターゲットをどこへむけるか、どのような方法で行うかが問題となる⇒それで効果的な募集となるかが決まる。
- 実際に行っている方より話を聞く事ができて、大変参考になった
- 北海道と他地域の条件・状況が大きく違っているということ。援農以前の段階にいくつものヒントがあるということ

### 問3 援農隊マッチング支援事業を進めていく上でどのような支援があるといいですか？

- 組織づくりまでの支援に加え、実際に募集をかけて援農事業をすすめる初期段階まで含めた支援をお願いしたい。
- 受入側への支援、具体的には、例えば大学生の交通手段、シェアハウスの整備等について支援があればいいと思います。
- 援農隊の募集に関する、農水省からの支援、特にハローワーク等への同行など。
- 新しい形の新規就農、空き家屋を利用した転居・転職を支援し、総合的に農業振興が図られる内容
- 他の県での事例を教えてもらいたい など
- 大学などの学生とのつながりがあるといいのかなと感じた。
- 全国の情報をもっと知りたい、その現場に行きたい。
- 始まったばかりの事業なので、活動している団体からの指導（今回のような研修会）や補助事業（補助金）についての具体的な指導が欲しいと感じた。
- 計画推進の変更、修正をすることができる仕組

### 問4 感想・ご要望など

- 実際に事業を行っている方々の声を聞くことができて、参考となりました。
- 今後こういった会議があればまた参加したいと思います。
- 当初考えていた「松島型援農モデル」が、事業を開始するまでに大きく変わってきてしまったため、初年度の事業であるので、もう少し挑戦的な取組みを支援頂けるとありがたいと思います。（例：企業へのアプローチなど）
- 急な参加申し込みでしたが、ありがとうございました。
- 大変勉強になりました。今後の参考にしたいと思います。
- すでに援農について取り組んでいる先進事例の紹介をお願いしたい。
- 様々な先進事例を聞くことができ参考になりました。
- グループワークと通して、気付いていくことが多く、参考になった。

## 第2回全国会議「援農隊マッチングフェア」 援農隊マッチング支援事業報告会＆援農交流会

### 第2回全国会議 参加者

農水省関係者：4名 地区推進：23名 検討委員：5名

一般参加者：48名（企業18名、官公庁・自治体6名、社団法人・NPO5名、その他19名） ゲスト：2名 合計44名

### 式次第

日 時：3月9日（月）13：00～18：00（受付開始12：30～）

第1部：13：00～15：45／第2部：16：00～18：00

会 場：パソナグループ本部ビル 8階ホール（東京都千代田区大手町2-6-4）

#### 【第1部】事業報告会

##### 1 開会

##### 2 挨拶

農林水産省 生産局 農産部 技術普及課長 榊 浩行

株式会社パソナ農援隊 代表取締役社長 伊藤 真人

##### 3 全国推進事業者からの報告（パソナ農援隊）

##### 4 地区推進事業者からの報告（16地域）

①特定非営利活動法人ほかけ

②農業生産法人 株式会社あすファーム松島

③柏農えん有限責任事業組合

④長野県

⑤特定非営利活動法人 南アルプスファームフィールドトリップ

⑥とぴあ浜松農業協同組合

⑦特定非営利活動法人生涯の地域活動支援の会アツマールぎふ

⑧大阪府

⑨特定非営利活動法人 農楽マッチ勉強会

⑩兵庫県

⑪徳島県鳴門藍住農業支援センター

⑫徳島県阿南農業支援センター

⑬徳島県徳島農業支援センター

⑭西宇和みかん支援隊（八西地域農業振興協議会）

⑮長崎県

⑯沖縄畑人くらぶ

##### 5 パネルディスカッション『援農隊の更なる推進に向けて』

ファシリテーター：四本 和臣氏（検討委員）

西宇和みかん支援隊（八西地域農業振興協議会） 兵頭 洋仁氏

特定非営利活動法人ほかけ 野間 克実氏

沖縄畑人くらぶ 小泉 伸弥氏

## 6 全体総括

加藤 寛昭氏（検討委員）

## 7 第1部閉会

### 【第2部】援農マッチング交流会

#### 1 第2部開会

#### 2 挨拶（パソナ農援隊）

#### 3 パネルディスカッション 『援農で地域を元気に！』

ファシリテーター：千田 良仁氏（検討委員）

一般社団法人Vコミュニティ 代表理事 牛飼 勇太氏

田畠と森と海でつながる学生団体 代表 霜田 直人氏

特定非営利活動法人南アルプスファームフィールドトリップ 小野 隆氏

特定非営利活動法人農楽マッチ勉強会 山本文則氏

柏農えん有限責任事業組合 関根 勝敏氏

#### 4 第2部閉会

### 実施状況



## ◆平成26年度 農林水産省 援農隊マッチング支援事業 第2回全国会議第1部資料

農林水産省「平成26年度 援農隊マッチング支援事業」  
平成26年度報告会議「援農隊マッチングフェア」  
援農隊マッチング支援事業報告会&援農交流会

日時：3月9日（月）13:00-15:45  
会場：パソナグループ本部 8階ホール

第1部資料

PASONA  
農援隊

地区推進事業者からの報告発表

特定非営利活動法人ほかげ（北海道平取町）

経営工学手法による『継続できる援農隊マッチングシステム』開発事業（北海道平取町地域）

【事業の主な内容】

- 1. 労働力供給システムの構築
  - ①地域の労働力に関する調査
  - ②候補者登録システムの構築
  - ③候補者教育システムの構築
- 2. 援農者の組織化
  - ①援農隊データベースの構築
- 3. 援農隊システムの事業化
  - ①事業化モデルの検討

●調査と考察

- ・地域内の不足する労働力と時期
- ・既存の作業と標準化について
- ・既存の援農者確保の手立て
- ・他地域の状況

●準備

- ・援農者確保
- ・援農隊コミュニティ

\*経営工学手法による科学的管理  
\*作業の標準化と他業種における労務管理の組合せ  
\*組織化を発展させた援農隊コミュニティづくり  
\*若者の学び欲求の労働力化 → 就農、移住

経営工学手法による『継続できる援農隊マッチングシステム』開発事業（北海道平取町地域）

【事業の主な内容】

- 1. 労働力供給システムの構築
  - ①地域の労働力に関する調査
  - ②候補者登録システムの構築
  - ③候補者教育システムの構築
- 2. 援農者の組織化
  - ①援農隊データベースの構築
- 3. 援農隊システムの事業化
  - ①事業化モデルの検討

●事業化できる仕組み

- ・地域内の不足する労働力と時期
- ・既存の作業と標準化について
- ・既存の援農者確保の手立て
- ・他地域の状況

●学生・若者・よそ者の活用

- ・援農者確保
- ・援農隊コミュニティ

●農山漁村ワーキングホリデー

●援農隊コミュニティ

●大学での援農サークル

農業生産法人株式会社あすファーム松島（宮城県松島町）

【団体名】農業生産法人 株式会社あすファーム松島

【テーマ】  
松島町の農業の実態を知り、地域にあった援農隊の組織化に向けて

【実施内容】

①松島の農業労働力調査の実施  
(地区会長、及びJAの営農センター社員に実施)  
・松島の農繁期に求められている農作業の種類や労働力の供給状況を把握した。

項目	内容
主な作物	水稻、ナス、トマト、ジャガイモ、他
農繁期	春から秋にかけて
作業内容	草刈り、収穫、定植

Q. どちら方に手伝ってもらいたいですか  
作業が無い 4  
作業が丁寧 20  
常識がある 4  
コミュニケーションがしっかりしている 4  
農業経験がある 19

【実施内容】  
②援農隊の募集説明会実施  
・実施日：平成27年2月10日 14:00～  
・援農隊の概要説明と希望者に面接を実施  
・9名の方が集まった

③企業へのヒアリング  
・法改正のため、定年延長への企業の取組み状況と援農の可能性、農業でのセカンドキャリアの可能性をヒアリング

【成果・課題 等】  
・「農家の農繁期のお手伝いをするという働き方」のニーズがあつた  
・援農者には、「速さ、コミュニケーションよりも作業の丁寧さや経験が重視されている」ことから、事前研修の重要性を知った。

➡ **応用可能な農業技術の習得  
(農業技術研修マニュアル、受け入れマニュアルの作成)**

【今後の展望】  
・援農隊員の募集強化  
・援農隊の援農範囲や受け入れ農家の範囲について検討

【団体名】柏農えん有限責任事業組合（千葉県柏地域）

【団体名】柏農えん有限責任事業組合（以下「LLP」）※組合員は8名

【テーマ】農業塾の運営による地元農業の活性化

【実施内容】

- ①「繁忙期に労働力が欲しい」「規模拡大したい」というような農業者の困りごと解決
- ②「地域に貢献する活動をしたい」「仲間をつくりたい」というような高齢者の生きがい創出

上記2点を結びける組合組織としてLLPが設立され、農業現場での高齢者の活躍が期待された。そこで、農作業経験のない高齢者が授農活動へ行く前に、最低限の知識とノウハウを習得するため、「農業塾」を実施することになった。

農業塾は1年間を通して、実地研修（週1回）と座学研修（年3回程度）が行われる。実地研修ではLLP組合員の農業者が講師となり、様々な露地野菜と水稻を播種～収穫まで行う。

【農業・園芸 等】

・高齢者の生きがい創出。「活動は毎週数時間であるが、生活にハリが出た」「皆で汗して働く中で仲間ができた」等の感想が多くあった。なかには、農業塾で習得した知識・ノウハウを活用して、就労した者もいる。




農業塾という研修システムの構築。高齢者が授農前に、農業の知識とノウハウを習得することができた。また、農業に対する理解を実地と座学を通して学ぶことで、農業者と高齢者との「気持ちのスマッシュ」が解消した。

・即戦力の育成・確保。事業規模を拡大するには、より知識とノウハウを身につけた人材（即戦力）が求められる。そのためには、農業塾の充実と現場での経験蓄積による人材育成・確保が課題である。

・高齢者の受け入れ態勢の確立。多くの高齢者が農業現場で授農するには、受け入れ態勢の拡充が不可欠である。

【今後の課題】

- ・援農隊のメンバー（農業塾生）と農家との間で、労務管理等の調整を行う人材の育成を目指す。
- ・組合保有の圃場にて民間企業との契約栽培を試み、組合の継続的運営が可能な収益の獲得を目指す。

2015/3/17




長野県（長野県）

【長野県】

異業種人材活用マッチングサポート事業

■ 実施内容

- 1 市町村、JA等との連携会議の開催
- 2 企業の農業経営体の体制強化や経営発展への意欲振り起しのための研修会の実施
- 3 庭地や農家経営の維持、発展のための必要労働力の聞き取り調査
- 4 援農者への農業技術指導

■ 成果・開催

- 1 地域の実状に見合った授農システムの研究
- 2 農業者のニーズに見合った援農者の確保
- 3 援農者を雇用し続けられる経営の確立

■ 今後の課題

- 1 援農システムの仕組みづくりと試行
- 2 他産業従事者への本事業のPR



研修会		授農者数	受け入れ農家数
開催数	参加人数		
6	71	48	27

特定非営利活動法人南アルプスマルシェフィールドトリップ（山梨県南アルプス地域）

【団体名】特定非営利活動法人 南アルプスマルシェフィールドトリップ  
【テーマ】『南アルプスマルシェ』を軸とした援農隊の確保・育成

【事業方針】

- 課題: 南アルプス地域は日本一の生産量を誇るスモモを始め、桜桃・桃・葡萄などの産地ですが、農業従事者の高齢化に伴う耕作放棄地の増加と共に、果樹の剪定技術に時間がかかることから、せっかくの成績が、従事者のリタイアと共に継承されない問題を抱えています。
- 現状: 内の子育て中のママさんは、長期間労働や、時間の定めのある労働にはなかなか付かないため時間の融通がきき、なかなか毎年定期的に収入が確保できる仕事を希望しています。
- 目的: そこで援農イベントを実施しながら、参加者に農家の希望するスキルを習得する援農検定を行い、検定合格者のみ有償スタッフとして雇用する仕組みを構築することで、潜在的な援農応募者を確保します。
- 本取組みにより、農業者の産地維持にあたり、一定量の技能を有したスタッフを確保でき、潜在的な南アルプス果実のファンを拡大する仕組みが行えます。

【主な実施内容】

- 県外の農業交流NPOと連携し、果樹作業の援農ボランティアを募り都市でのマルシェ販売や、農園での農作業を通年確保できる体制を作る。
- 県内の子育て団体と連携し、農作業の援農チームを登録し、繁忙期の農作業従事を希望するママさんの確保を行う。
- 援農ボランティア向けの南アルプスマルシェ検定制度を行い、検定に合格した者に特産品の割引などのインセンティブを与える仕組みを作ると共に、一定以上の技能合格者の中から有償スタッフとして作業に従事できる仕組みを作る。




とびあ浜松農業協同組合（静岡県浜松市・湖西市）

【団体名】とびあ浜松農業協同組合  
 【テーマ】 握農隊の創設による面接農地整備に向けた取組  
 【実施内容】 基礎研修の実施  
 先進地視察（北海道 JA鹿追）  
 握農隊整備の検討  
 握農隊研修  
 【成果・課題 等】  
 基礎研修：単位面積当たりの作業時間、必要労働力を把握作業完了目標時間を設定した。  
 目標32面積/10アール  
 先進地視察：機械収穫の現状・課題把握 収穫受託農業者の運営実態・課題把握  
 握農隊員募集：会員組織に子供を育てる母親層がターゲット  
 握農隊研修：○実験による作業内容説明  
 ②出荷荷重判定マニュアルを映像で説明  
 ③白丁を使用した収穫実地研修  
 作業パターンを覚えて実施することで、当地区に合った「省効率の良い方法を見つめた」  
 【今後の展望】  
 農隊運営支援：握農隊運営技術（労務管理等）  
 取扱技術の確立  
 作業受託面積の取り組み、作業計画の作成及び日程調整

特定非営利活動法人生涯地域活動支援の会アツマールぎふ、（岐阜県東濃地域）

【団体名】特定非営利活動法人生涯地域活動支援の会 アツマールぎふ  
 （略称：NPO法人アツマールぎふ）  
 【テーマ】握農隊組織化メンバーの確保と、農業の現状調査、握農者の育成について  
 【実施内容】  
 -地元農家の生産状況調査の実施  
 -研修会の実施開催と農業者ネットワークの構築  
 -握農隊組織化のための広報活動、募集中の実施  
 -握農者の研修内容の検討・実施 等  
 【成果・課題 等】  
 <地元の現状把握>  
 -若い人材を育成する方法について皆で考え方を始めた。  
 <開催>  
 -農業について若い人材は技術的な面と営農の面で課題を感じたが、耕種方法がわからない。⇒握農者の育成だけでなく、握農者の指導方法についてもアドバイスしてほしい。⇒ニーズがあるが必要なのか?  
 -特に立派なみでは、経験が豊富い、移住・定住する人とその支援者という関係構築が必要だ。  
 【今後の展望】  
 -握農というよりも、握農隊それも組織の大きさを組合がないと農地そのものが埋もれない。  
 組合としても、メンバーが活動化していると組織は壊れない。まず、若い世代を育てること。  
 (育てをかけてでも人材を育てること。)  
 -握農者ネットワークが出来ても、設計を立ち出すは悩みを持たないと気がかない。  
 組合だけではない組織の結合が重要なのは? 地域活性化のための仕組みづくりを行う。

大阪府（大阪府）

【団体名】大阪府  
 【テーマ】 握農組織のスキルアップ及び高度な技術をもつ握農者の育成  
 【実施内容】 ・握農組織のスキルアップを図るため、農業機械の講習等を実施。  
 ・高度な握農候補者を育成するため、先進農家のもとで実地研修を実施。  
 【成果・課題 等】 ・握農組織へのスキルアップ講習実施(4団体)  
 ・先進農家のもとで研修実施(9名見込み)  
 ★課題は、研修実施に向けた握農候補者と農家のマッチング  
 【今後の展望】 ・握農組織のスキルアップによる握農拡大  
 ・高度な技術を習得した者による握農実施



▲ 農業機械の講習会の様子

▲ 先進農家の実地研修の様子

特定非営利活動法人農業マッチ勉強会（大阪府羽曳野地域）

【団体名】 NPO法人農業マッチ勉強会  
 【テーマ】 握農者の農業技術向上と農家の作業負担低減  
 【実施内容】 大阪府羽曳野市でなどういちじくの座学研修・実地研修を行う  
 【成果・課題 等】 12月より毎月握農隊員募集説明会と要入れ農業募集説明会を行っている。対象エリア外の農家からの相談は多数あったが、羽曳野のなどう農家といちじく農家の参加が少ないのが課題になっている。  


【今後の展望】 夏に向けて収穫シーズンに入るので実地研修を増やし、握農隊員の確保とレベルアップを図る

36

援農隊マッチング支援事業 事業報告書

<p>兵庫県（兵庫県神戸、三原地域）</p>	<p><b>【団体名】</b> 兵庫県  <b>【テーマ】</b> 兵庫県野菜生産力強化に向けた労働力不足解消への取組  <b>【実施内容】</b>          ① 地域（産地）が必要としている労働力についてとりまとめて検証          ② 援農希望者の幅広い募集          ③ 援農希望者や援農者に対して、知識や技術の習得に向けた支援          ④ 就用する生産者に対して、雇用等を導入した農業経営等の支援  <b>【成果・課題 等】</b>          ① 産地に必要とする労働力について検証をしているところだが、現状では不足する労働力が大きく対応が難しい。          ② 援農希望者の募集を行い、地域全体から援農希望者を募る事ができた。          ③ 技術を習得している援農者と経験が浅い援農者をセットにOJT研修を行い、現場で実践しながらも技術習得を進めた。          ④ 円溝をつ練続的に雇用を導入できるように、雇用等を導入する生産者に向けた農業経営指導等を実施した。  <b>【今後の展望】</b>          ① 産地内における労働力不足の状況は大きく、産地外からも援農者を受入れられるよう、様々な面からの支援体制を整える必要がある。          ② 今後さらに発展的な取組みになるように、援農希望者の募集や技術習得支援を継続的に行っていく。            OJTによる援農活動の様子       </p>
------------------------	--

<p>徳島県（神山地域）</p>	<p><b>【団体名】</b>徳島農業支援センター  <b>【テーマ】</b>すだちヘルパーの育成と農家とのマッチング支援  <b>【実施内容】</b>  ①神山町接農隊マッチング推進会議の開催  ②関係機関（JA、町、農業委員会、県）で接農農家のあり方について検討  ③接農農家と接農隊員のマッチングのためのマッチングマッチングセミナー開催  ④具体的な面談を行なうとともに、人材募集方法について検討した。  ⑤人材募集のためのパンフレットを作成し、人材募集  ⑥スダチ作業の講習会（選別收穫・せん定）の開催  ⑦県外スダチ作業の視察調査  ⑧接農隊員（新規）の採用調査  ⑨接農隊員（既存）の採用調査  <b>【結果】</b>  ①地元農家の多くが雇用者の意向をアンケート調査  ②採用者の求めるもの  （調査）都心部から離れているが、交通費等は計上できない  宿泊費を入れた対応困難  ③接農農家の採用実施  ④接農農家の採用実施  ⑤効率的採集方法の検討  （調査）都心部から車で30分以上かかる一方地元では確保困難  直射日光の影響が大きい体力的負担が大きい  接農農家の体力的負担が存在、待合室にも余力が無い  ハローワーク、シェルハーツセンターの連携  ⑥接農農家への取扱い実施  ・だらうの取扱い業  ・すだちのせん定作業  （調査）せん定、摘果・摘果作業は技術習得が必要  <b>【今後の観察】</b>  ①引き続き人材募集のためのパンフレットを作成し人材募集を行うとともに、スダチ作業の講習会の開催  ②雇用者向けセミナーの開催  ③募集者に応募した人材の組織化について検討（接農農家と農家のマッチング体制の構築）</p>
------------------	---

八西地域農業振興協議会（愛媛県八西地域）

【団体名】西宇和みかん支継隊  
【テーマ】みかんブランド産地の担い手・接農者の確保、育成

【実施内容】

1 支継隊の設置・立上げ 5/22

2 支継隊の広報活動

- 市町・JA等による管内農業者への周知
- 支継隊HP・Facebookによる就農・就農情報の発信

3 農用労働力調査

西宇和管内の実態を把握し、将来需要をシミュレーション

4 労働力確保

- 都市部での就農・就農相談会  
東京・大阪で7回 松山1回
- 八幡浜お手伝いプロジェクト  
松山での定期説明会3回 農家との交流会2回、事前研修会2回  
リスク軽減策（シャトルバス運行4回、宿泊施設利用）
- 東宇和みかんの里アルバーター事業  
東京・大阪で250人と面談 農家との対面式・交流会
- 大学連携就農システム事業  
健太郎大学、松山大学の農作業ボランティア4回



(5) 無料就農紹介事業  
近畿市町の農業新聞に折り込み25,000部  
(6) JAICJうわ農作業支継事業  
農業機械13人を雇用（各機械雇用事業活用）  
(7) 農業体験ステイ事業  
農業に興味を持つ都市青年が農作業と農家生活を体験  
(8) ワーキングシェア活動  
県内企業及び関係JAとの労働補充

5 担い手育成・定着活動  
管内3地区にモデル地区を設置し、地域ぐるみで担い手の育成・定着に特化した活動を展開

【成果】  
(1) 都市部での就農・就農相談会  
就農相談会131件 情報の相互交流 ステイ事業へ3件  
(2) 八幡浜お手伝いプロジェクト  
ワーカー登録数73名 実績数105人  
(3) 東宇和みかんの里アルバーター事業  
応募者数241名 受け入れバイト153名  
(4) 大学連携就農システム事業  
就農したボランティア活動 オレンジサークル隼足（松山大学）  
(5) 無料就農紹介事業  
紹介者34名 農家登録数73戸 計べ170人役



(6) JAにしうわ農作業支継事業  
作農員13名で1345人役（12月末現在）

(7) 農業体験ステイ事業

労働補充の相互交流

スライド会場設置戸数10戸 体験実績3件

(8) ワーキングシェア活動

県内企業（大和ハウス、伊予銀行等）

関係JA（近畿JA、北海道JAふらの）

JAふらの農業体験会宿泊施設



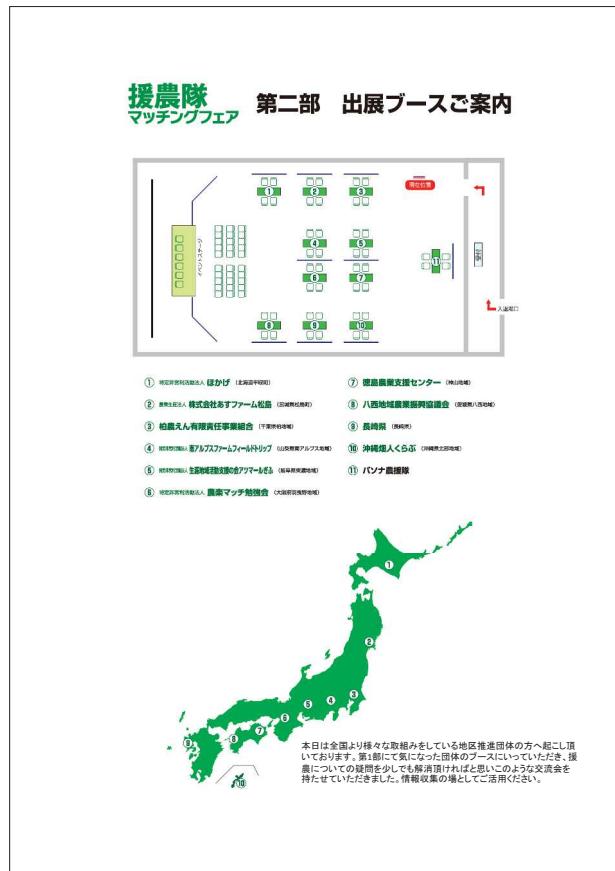
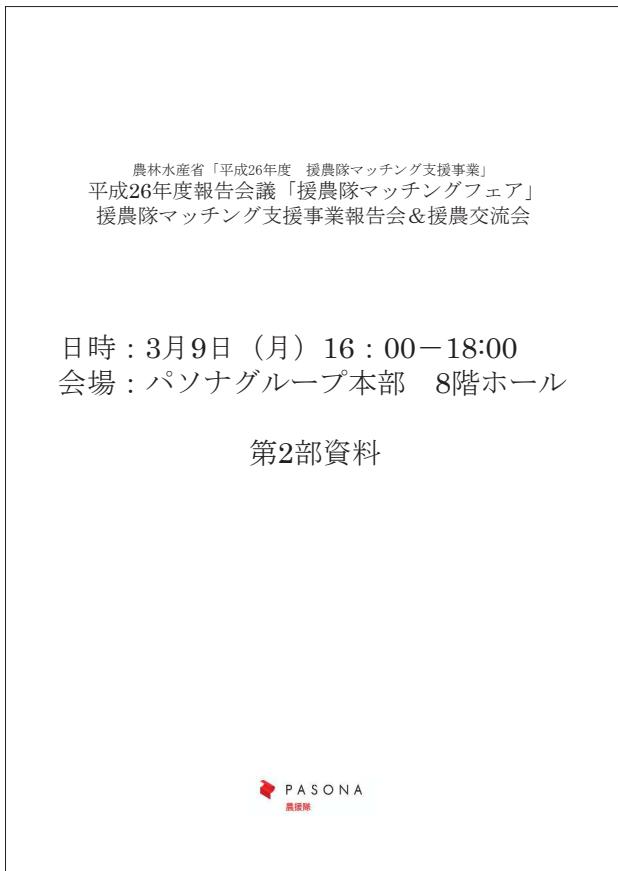
JAふらの農業体験会宿泊施設

【課題】

- 宿泊施設の充実
- 余剰労働力の地域内運動
- 労働能力の高位平準化
- 地域ごとの担い手・接農システムづくり

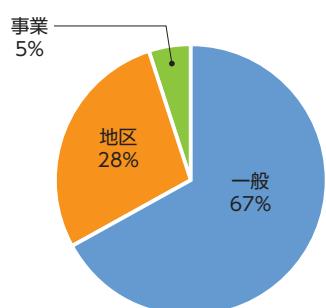
JAふらの農業体験会宿泊施設

◆平成26年度 農林水産省 援農隊マッチング支援事業 第2回全国会議第2部資料

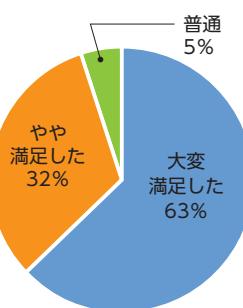


## アンケート結果

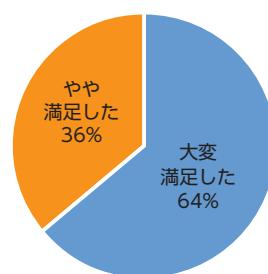
## ◆回答者の割合



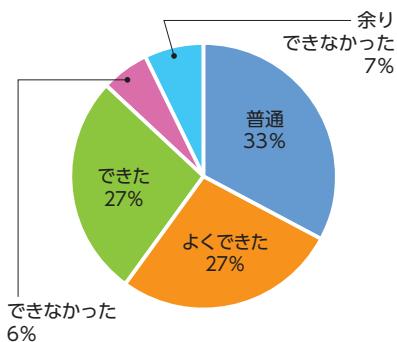
## Q1 本日の援農隊マッチングフェア 第1部はいかがでしたでしょうか？



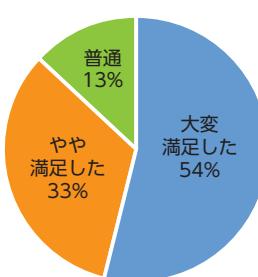
## Q2 本日の援農隊マッチングフェア 第2部はいかがでしたでしょうか？



### Q3 本日の援農隊マッチングフェア でご参加された方と広くネット ワークができたでしょうか?



#### Q4 本日の援農隊マッチングフェア 全体の満足度はいかがでしたで しょうか？



### 問1 第1部における地区推進事業者様の発表で、印象に残った発表とその理由についてご記入ください。

#### NPO法人ほかけ

- 北海道ならではの取組みかも知れませんが、大学生とのネットワーク構築はとてもうらやましく拝聴させていただきました。私達も地域を活かした対象者の絞込みも必要だと感じました

#### 徳島県

- 細かいカリキュラムを組んで行っている点

#### 長野県

- 社長が経営にかかわるすべてのことをやらないといけないため管理・総務などの面で企業の人才活用可能性を考えているという話も、今後農業規模の拡大を考えている法人にとっては重要な視点だと感じたので来年度以降の取組みに注目したいです。

- 目指す姿がしっかり整理されていた

#### 西宇和みかん支援隊

- 研修、体験、バスでの送迎、宿泊手配など積極的に手を伸ばされ人の確保に組織化に取り組まれている先行事例に感じた。
- 様々な人脈や国事業を活用して多用な扱い手を活用しようと積極的に取り組んでおられるお話を聞けて参考になった
- 長崎でも地域外からの労働力確保も含めて多様な支援者の確保が必要と考えるがすでにそれらの取組みを実施されており、参考になる
- 援農者の能力面でのケア、農業者の求める人材マッチングについて
- 色々な取組みをされている、宿泊施設は重要だと思った

#### 農業生産法人株式会社あすファーム松島

- 必要とされている人材の詳細を調べ上げ、足りない部分を研修で補うところ

#### 南アルプスフィールドトリップ

- 農業検定という明確な資格基準に基づいて人材の価値を明確化しながら援農者を作ることはよいと思います。人材の実の標準化は大きな課題ですので何らかの基準によって示すことが大切。
- 検定、子育てママ、マルシェなど若い人材を取り入れるためのキーワードがたくさん盛り込まれており、農業に多面的に関わることのできる仕組みづくりをしている。有償スタッフは検定合格者のみという能力に対する評価が入るのは自信につながる。あとは農業者との交渉方法を知りたい。
- 援農検定の考え方方が非常に興味深かった、習熟度を測ることは生産者・労働者の双方にとっても重要なと思います。

### 問2 援農隊マッチングフェアへのご意見・ご感想がございましたらご記入ください。

- 援農の取組みはまだまだこれからの仕事という感じがした。援農ボランティアを希望する若者が集められるか課題である
- 学生などの若い方の意見や農業を外からみた意見を聞けてよかったです
- 学生の方の意見、とても刺激になりました、外部の方の意見はとても参考になります！
- 全国を移動しながら援農をしている人の意見を聞きたいと思っていたのでそういう団体の事例が聞けてよかったです
- 第1部と第2部を分ける意味がよく分からぬし、交流会は最後でいいと思います。個別ブースは敷居が高いです。第2部のパネルディスカッション中に個別ブースの話声が丸き声なのはいかがなものかと思います。個別発表とパネルディスカッションの内容は非常に参考になりました
- 大変いい活動だと思いました
- 大変参考になりました
- 他の事業者の活動をしり、学び、自身の事業推進に活かすことができるいいきっかけになると思います。
- 地区推進事業者の方々が即戦力としての援農要因を求めているのに対し、Vコミュニティさんや学生団体で組織されている援農要因はなんとなく農業に興味をもっているような方々なので両者の援農という言葉のとらえ方にまだキャップがあるように感じました。今回の事業における援農という言葉の定義を最初にお示しいただけたらより助かったなと思います。
- 日本の未来⇒永続的発展に向けて1次2次3次産業すべては大切なものの、1次産業へのイメージをほかの産業に劣ることの無いものにしたいと思います。今後も継続的に実施して欲しい。
- 農業に実際にやっている農業従事者をもっと集められるとよかったです。

### 問3 援農隊マッチング支援事業 地区推進事業者様へのご意見・ご感想がございましたらご記入ください。

- 援農者の組織化、受入体制の整備という難しい課題に取り組まれており、頭がさがる思いです。ご苦労も多いかと推察されますが、どうかがんばってください。
- 地元農業の人才不足という論点だけでなく、全国の農業という視野にたち、よりよい日本農業の未来を全員で作っていくという思いの共有が必要であると思います、他見から若い人が学生として交流しているのが現状ですのでどの地域でも農業者を育てて、どこでも働けるようにネットワークすることが大切だと思います。(就農に向けた社会機会を向上される)
- それぞれの事業費の内訳を知りたい
- 地域ごとに事業が異なるので苦労の内容も異なるとともに、逆に地域間で助け合える可能性があることが分かり大変参考になりました。新しい発想で取り組んでおられるところはとても刺激になりました。



- 地域で援農の取組みを広げて欲しい
- 地区ごとに様々な取組みをされており、勉強することが多いです。共通課題も多く、援農者の取り合いになっているわけではなく、連携ができる可能性も高いことも知りました。北海道⇒愛媛⇒沖縄と動くアルバイトの存在を知ったので時期が合えば岐阜もと思います。

**問4 援農隊マッチング支援事業 全国推進事業者へのご意見・ご感想がございましたらご記入ください。**

- 援農は都市と農村、若者と農家をつなぎ、いわば農業活性化をさせる取組みだと思います、がんばってください
- 知らないうちに、パンフレットやポスターがどんどんできていてびっくりでした。少人数で全国推進をされていると勝手に思っていたので仕事がすごいです。これからもがんばってください
- 全国農業修行の企画はいかがでしょうか。都市部より全国各地を本事業を通じてルートを作り東京の学生などを地域に農業研修させるなどを行って、若者の視野を広げる、東京に状況している若者を地域に帰すこともできるかも？
- 全国の先進事例の詳細を知ることができ大変参考になりました
- 全国を回るアバターのネットワーク化
- 全国を渡り歩く援農アルバイトのネットワーク化や三置換の連携の仕組みつくりは全国推進事業者の立場でなければできない取組みだとおもう
- 提出して欲しい内容をフォーマット化してそれに記入する形にしていただけだと出しやすいです

## 【新・農業人フェア出展】

### 新・農業人フェア 12月(実施状況)

2014年12月20日(土) 東京開催 IN 池袋サンシャイン

来場者数 1,347名

参加情報 パソナ農援隊(就農相談)／援農隊マッチング新事業者 2ブースにて参加

訪問人数 パソナ農援隊:25名(うち情報取得23名)／援農隊:20名(うち情報取得17名)

#### ブース来場者特徴

平均年齢 26歳(20~63歳)

男女比率 男性8:女性2

- 農業に興味があるが何からやったらいいのかわからない
- 援農に興味がある
- 農業で働きたい
- 何か情報がほしい



### 新・農業人フェア 2月(実施状況)

2015年2月8日(日) 東京開催 IN 東京国際フォーラム

来場者数 1,780名

参加情報 パソナ農援隊(就農相談)／援農隊マッチング新事業者 2ブースにて参加

訪問人数 パソナ農援隊 14名(うち情報取得13名)／援農隊:約100名(うち情報取得8名)

#### ブース来場者

平均年齢 34歳(20~63歳)

男女比率 男性6:女性4

- 3月9日のイベント集客のためチラシ配布を中心に実施
- チラシ470部配布できた
- 農業について漠然と考えている方が多く情報収集に来た形の人が多くかった。



## 【事業推進ツール】

### ●第1回全国会議ポスター

平成26年度農林水産省  
援農隊マッチング支援事業

# 農家・農業法人の人材不足を強力サポート! 援農隊、出陣です。

近年、農村部では高齢化や過疎化が進行。  
定植期や収穫時期など、  
多くの労働力が必要となる際に  
人材を確保できない農家が  
少なくありません。

農家や農業法人が所得の向上を目指して  
経営規模・品目の拡大などを  
進めていくためには、  
その経営に見合った労働力を継続的に  
確保する必要があります。

本事業は、そんな農家・農業法人に対して  
必要とする労働力の供給システムを構築。  
「援農隊」として農業未経験者を含む  
人材を育成・組織化して、  
全国規模で農家・農業法人を強力に  
サポートしていくものです。  
そして今夏、第1回の全国会議を開催。  
効果的な援農隊育成手法などに  
ついて検討を重ねます。

日 時／2014年7月4日(金) 場 所／パソナグループ本部 8Fホール  
開催時間 13:30～ 東京都千代田区大手町2-6-4

お問い合わせ  
お申し込みは **TEL.03-6734-1260**

agri@pasona-nouentai.jp

株式会社パソナ農援隊 全国推進担当事務局: 事澤・後藤  
※定員(100名)になり次第、受付を終了させていただきます。

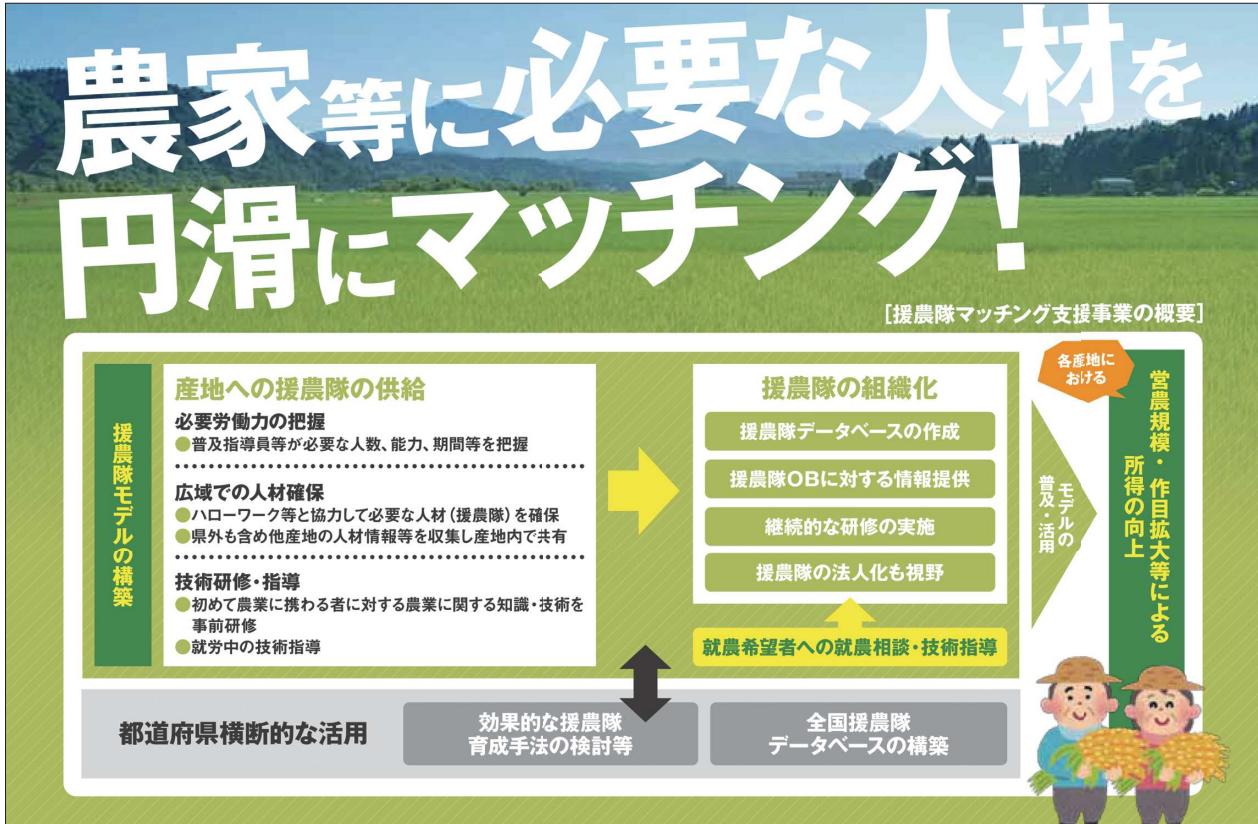
キックオフミーティング開催

第1回全国会議

申し込み締切日  
**7.3**  
木曜日

PASONA  
農援隊

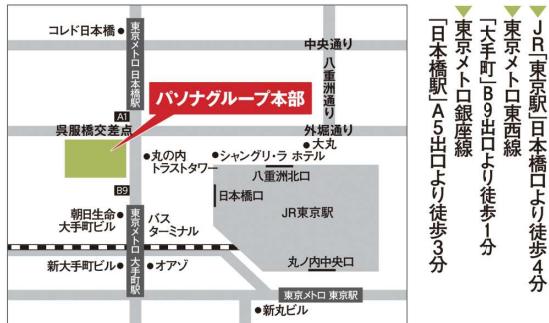
## ●第1回全国会議チラシ



平成26年度農林水産省補助事業 援農隊マッチング支援事業

# ＼第1回全国会議／ **キックオフミーティング** **開催！ 2014.7.4 金 13:30～**

パソナグループ本部 8Fホール／東京都千代田区大手町2-6-4



PROGRAM 【第1部】13:30▶15:00 【第2部】15:10▶17:00

- |       |                          |
|-------|--------------------------|
| 13:00 | 開場・受付開始                  |
|       | ＜第1部＞ キックオフミーティング        |
| 13:30 | 開会                       |
|       | 農林水産省より挨拶                |
| 13:40 | パソナ農援隊より挨拶               |
| 13:45 | 講演「援農隊の推進について」           |
| 14:00 | パネルディスカッション「援農の可能性について」  |
| 15:00 | 第1部終了 休憩（10分）            |
|       | ＜第2部＞ 援農隊マッチング支援事業推進セミナー |
| 15:10 | 援農隊マッチング支援事業（全国推進）について   |
| 15:20 | 地区推進事業の紹介                |
| 16:00 | 休憩（5分）                   |
| 16:05 | 地区推進セミナー                 |
| 17:00 | 「援農隊推進のポイントについて」         |
|       | 第2部終了 閉会                 |

※内容は変更する場合がございます。

申し込み  
締切日  
**7.3**  
木曜日

お問い合わせ・お申し込みは、お電話もしくはメールにてお願いいたします。

TEL.03-6734-1260

担当: 岩澤・後藤  
定員(100名)になり次第、受付を終了させていただきます。

本公司100%采用进口原料，无污染的高品质产品，欢迎订购！

相当·岩遷·後藤



## ●事業PRポスター

平成26年度農林水産省補助事業  
援農隊マッチング支援事業



援農隊が  
来てくれると  
作業がはかどるよ。

応援します！

全国の産地を

援農隊が

全国の農家・農業法人の  
人材不足をサポート!!

求む!  
援農者

農業では定植期や収穫期に多くの労働力を必要とします。  
高齢化や過疎化が進み、必要な人材確保が難しく、全国各地の農家であなたの手を必要としています！  
未経験者でも技術指導があるから、安心して働けます。農業を学びたい方、興味のある方など、農業のお手伝いをしていただける方は、援農隊で思う存分、力を発揮してください。

お問い合わせは  
株式会社パソナ農援隊 TEL 03-6734-1260 〒100-8228 東京都千代田区大手町2-6-4  
受付時間 9:00~17:30

[f https://www.facebook.com/ennoutai](https://www.facebook.com/ennoutai) 援農隊マッチング 検索

PASONA  
農援隊

QRコード

## ●事業概要パンフレット

お問い合わせ

株式会社パソナ農援隊  
03-6734-1260  
agri@pasona-nouentai.jp  
[www.pasona-nouentai.co.jp/](http://www.pasona-nouentai.co.jp/)  
[www.facebook.com/ennoutai](https://www.facebook.com/ennoutai)

QRコード

援農隊マッチング

平成 26 年度農林水産省  
援農隊マッチング支援事業

# 援農隊 マッチング支援事業 について

## ●WEBページ

<http://www.pasona-nouentai.co.jp/ennoutai/>

**PASONA 農援隊** 農家や農業法人に必要な人材を円滑にマッチング!

農業について 援農隊について 全国推進団体について 地区推進団体について 農業を営んでいる方へ

03-6734-1260 受付時間 10:00-19:00 (無休)

日本の農業を応援します

農業について 全国推進団体について 農業を営んでいる方へ

地区推進団体について

北海道恵取町 特定非営利活動法人 ほかけ  
千葉県印西市 有限責任事業組合  
山梨県南アルプス地域 特定非営利活動法人 南アルプスファーム フィールドトリップ  
岐阜県東濃地域 特定非営利活動法人 生涯地域活動支援の会 アツマールぎふ  
大阪府羽曳野市 特定非営利活動法人 農業マッチ駆除会  
徳島県 阿南・那賀・津山地域  
長崎県

宮城県松島町 農業生産法人株式会社 あすファーム松島  
長野県  
静岡県浜松市・湖西市 とびあ浜松農業協同組合  
大阪府  
兵庫県  
愛媛県八幡地域 八幡地域農業振興協議会  
沖縄県北谷地域 沖縄県人ぐらぶ

## ● 援農者求人票フォーマット

援農者 求人票【案】

### 援農者 求人票

受付年月日	
受付番号	
受付受理者	

フリガナ 氏名			
フリガナ 団体名			
住所			
連絡先	電話番号:	携帯番号:	
業務内容	作物: 作業内容:		
就労場所	名称: 住所( )		
求人人数	名		
その他希望	作業経験	あり・なし	その他( )
雇用予定期間	平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日		
就労時間	時 分 ~ 時 分		
休憩時間	時 分 ~ 時 分		
休日	月・火・水・木・金・土・日 その他( )		
賃金	時給・日給 円		
その他希望			



## ● 援農求職票フォーマット

援農求職票【案】

### 援農求職票

受付年月日	
受付番号	
受付受理者	

写真

フリガナ 氏名					
現住所					
年齢	歳				
電話番号	TEL	携帯			
免許・資格					
農作業の経験	有	作業内容	期間	年	ヶ月 くらい
	無	具体的な内容( )			
希望業種					
希望休日	月・火・水・木・金・土・日・その他( )				
希望時間	時 分 ~ 時 分				
希望勤務期間	常用・期間限定(具体的な期間 )				
通勤方法	公共交通機関( 鉄道・バス )・自家用車・その他( )				
希望勤務地					

☆個人情報保護法により個人データについてはその漏えい、紛失、破壊および改ざんの防止に努め、求人者に対して求人者情報を提供するため以外には使用致しません。

## ● 援農者雇用契約書フォーマット

援農者雇用契約書(案)

### 雇用契約書

株式会社援農隊(以下甲という)と野菜 農業(以下乙という)とは、下記労働条件で雇用契約を締結する。

雇用期間	平成26年10月 1日 ~
契約更新の有無	1. 期間の定めなし 2. 期間の定めあり(～平成27年 1月31日) 3.「期間の定めあり」の場合の更新の有無 ①ある ②する場合がある ③ない 4. 更新する場合又はしない場合の判断基準 (①乙の勤務態度、能力 ②甲の経営状況)
就業の場所	当法人事業所敷地内 など
従事する業務内容	農作業全般、作物などの運搬業務、その他正社員の補助事業 など
繰り返しの有無	1. 月によって始業・就業時間が異なる( 有・無 )
始業・終業の時刻	2. 始業・終業の時刻(1日の所定労働時間) ①始業 9:00 ~ 終業 15:00 ( 5時間 ) ②始業 ~ 終業 ( 時間 ) ③始業 ~ 終業 ( 時間 ) 3. 1か月の所定労働時間 ①1か月の所定労働時間が年間を通して変わらない場合 時間 ②月によって1か月所定労働時間が異なる場合の月毎の所定労働時間( )内は1日の所定労働時間 月 時間( ) 月 時間( ) 月 時間( ) 月 時間( ) 月 時間( ) 月 時間( ) 月 時間( ) 月 時間( ) 月 時間( ) 月 時間( ) 月 時間( ) 月 時間( )
所定労働時間	4. 1年間の所定労働時間 時間 5. 1週間の所定労働時間 20時間
所定外労働の有無	6. 時間外労働の有無:有
休憩時間	(①日・週・月・年 以内 ②日・週・月・年 以内)・無
就業時転換の有無	7. 休憩時間:①10:00~10:15 ②12:00~12:45 ③
休日	1. 定例日 有・無 :毎週 日曜日 水曜日 木曜日 2. 非定例日 3. 年間 日
休暇	年次有給休暇(6か月金属勤務した場合:7日)(詳細は、就業規則による)
基本給と諸手当	1. 基本賃金(時給 1,200円)(日給 円)
締切日と支払日	(月給 円)(年間 円)
支払方法	2. 諸手当の額 ① 通勤 手当 200円(日額)
賃金支払時の控除	3. 割増率:①時間外労働 25% ②休日労働 35% ③深夜労働 25%
昇給	4. 賃金締切日15日 5. 賃金支払日 当月 翌月 25日(ただし金融機関が休日の場合は前日)
賞与	6. 賃金支払時の控除:有(法定控除)・無 8. 昇給:有( 月 )・無
退職金	9. 賞与:有 年回( 月、 月 )・無
試用期間中の賃金	10. 退職金:有・無
退職に関する事項	11. 試用期間中の賃金:試用期間は設けない。(詳細は、就業規則による)
解雇の事由及び手続き	1. 自己都合退職の手続(退職する30日以上前に届出ること) 2. 解雇の事由及び手続:就業規則第●条に定める通り(詳細は、就業規則による)
労働・社会保険	1. 雇用保険の適用( 有・無 ) 2. 健康保険・厚生年金保険の加入( 有・無 )
使用期間	3. 他( ) 4. 試用期間: 有 (1・2・3か月間、平成 年 月 日～平成 年 月 日)・無

上記契約の証しとして本書2通を作成し、甲・乙各1通を保有する。

平成 26年 1月30日

甲: 〒123-4567 東京都援農市1234  
株式会社援農隊 代表取締役 田畠 豊作乙: 〒123-4567 東京都援農市9876  
野菜 農業

## ● 援農作業受委託契約書フォーマット

<p>援農作業受委託契約書（案）</p> <p>委託者（以下「甲」という。）及び受託者（以下「乙」という。）は、おのおの対等な立場における合意に基づいて、次の条項によって受委託契約を締結し、信義に従って誠実にこれを履行するものとする。</p> <p>この契約の証として、本書2通を作成し、記名押印のうえ各自1通を保有する。</p> <p>平成 年 月 日</p> <p>委託者 住所 氏名 印</p> <p>受託者 住所 氏名 印</p> <p>第1条（援農作業受委託の内容） 甲は、この契約書に定めるところにより別表に記載する援農作業を乙に委託し、乙は善良なる管理者の注意を持って援農作業を実施するものとし、甲は、乙が受託作業を円滑に行えるように栽培管理等に十分な配慮をするものとする。</p> <p>第2条（援農作業受委託の契約期間） 援農作業受委託の契約期間は、平成 年 月 日から平成 年 月 日までとする。</p> <p>第3条（委託援農作業の実施内容） 甲が乙に委託する援農作業の実施方法は、甲が特に指示するもの以外は、乙の実施計画によるものとする。</p> <p>第4条（委託援農作業の実績報告） 乙は、受託援農作業を実施するとき並びに完了した時は、その都度速やかに甲に通</p>	<p>知するものとする。又、乙は年間の受託作業の一切が完了したときは、援農作業完了報告書を甲に提出するものとする。</p> <p>第5条（受託料の額及び支払い方法） 甲は、別表に記載された農作業に対して、同表に記載された金額の受託料を、月末日までに支払うものとする。</p> <p>第6条（契約の変更） 契約変更する場合は、甲乙協議のうえその変更事項をこの契約書に明記するものとする。又、契約期間の途中において、契約を解約する場合は、双方の合意により解約するものとする。</p> <p>第7条（その他） この契約書に定めない事項については、甲乙協議して定めるものとする。</p> <p>別表</p> <p>援農作業を委託しようとする作物・土地の表示・作業の種類・委託料・支払い方法</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>作物</th> <th>住所</th> <th>地積 (af)</th> <th>作業種類</th> <th>委託作業面積 (af)</th> <th>委託料の単価</th> <th>委託料の額</th> <th>支払いの方法</th> <th>支払いの時期</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>	作物	住所	地積 (af)	作業種類	委託作業面積 (af)	委託料の単価	委託料の額	支払いの方法	支払いの時期	備考																															合計									
作物	住所	地積 (af)	作業種類	委託作業面積 (af)	委託料の単価	委託料の額	支払いの方法	支払いの時期	備考																																										
合計																																																			

## ● 援農隊育成カリキュラムモデル(初心者編)

初めて援農を行う人向けの研修カリキュラムモデル。農業や援農に関する関心を高めるとともに、農家で安全に農作業を行うための最低限のポイントをつかむためのカリキュラムです。

No	分野	テーマ	内容	時間	ねらい
1	農業・援農について	日本の農業について	日本の農業をとりまく状況・課題等について	0.5	農業界全体について知り問題意識を高める
2		地域の農業について	地域の農業をとりまく状況・課題等について	0.5	地域農業について理解を深める
3		援農について	援農の必要性、援農という働き方について	0.5	援農の必要性・効果について理解をする
4	農家・道具について	農家・作物について	農家や作物について	0.5	援農に入る農家の特性や作物の特色について理解を深める
5		道具・機械について	援農に使う道具・機械について	0.5	道具・機械の基本的な知識をみにつける
6		資材・肥料・農薬等について	援農に関わる資材・肥料・農薬について	0.5	資材・肥料・農薬について基本的な知識を身につける
7		農業の用語・単位について	農業で使われる用語・単位について	0.25	農家特有の用語・単位について知る
8		指示の受け方にについて	農家とのコミュニケーション、報告・連絡・相談について	0.25	農家とのコミュニケーションのポイント・注意点について知る
9	援農の働き方にについて	作業の仕方について	体の使い方、ペース配分について	0.25	仕事として継続するために安全な体の使い方・ペース配分のポイントを知る
10		安全管理について	援農における安全管理について	0.5	安全管理の重要性を理解する
11		労務管理について	援農における勤務管理・時間管理について	0.25	勤務管理・時間管理の方法について説明する
12	現場研修	現場研修	道具・機械の使い方、体の使い方、作物の扱い方、安全確保の仕方	2.5	上記、座学研修のポイントを現場(農場)で実践し体験して学ぶ
計				7	

## ●【援農希望者向け】～ハンドブック～

**服装・持ち物チェック**

服装や必要な持ち物を、事前に農家に確認し、下記に記入して作業の準備を整えましょう。

**地区推進／連絡先**

**農家／連絡先**

**1 仕事の流れを覚える**

農作業の経験のない援農者が仕事を覚えていくには、

- ① 教えてくださる農家の横に並んで
- ② 同じ目線で
- ③ 細かいところまで確認しながら
- ④ その作業は何のために行うのか
- ⑤ どうやったら上手くやれるのか

などが意識しながら、作業手順のコツを習いますよ。農作業に取り組む姿勢が大事です！農家は援農者の姿勢を見ています！「農家がちゃんと教えてくれない」と感じた方は…自分たちが仕事を取り組む姿勢を振り返ってみると反省点があるかも。わからないことは、恥ずかしいと思わず、素直に質問してください。農家もやさしく教えます。

**2 作業内容の指示を正確に守る**

仕事のスケジュールやその日の仕事について、農家からの指示を無い場合や忘れてしまった場合は、必ず作業を始める前に確認しましょう。

**【4WHで確認】**

- ☑ 何時から (When)
- ☑ 誰が (Who)
- ☑ どこの場所で (Where)
- ☑ どの物を (What)
- ☑ どのような作業で (How)

作業内容の勘違い、思い込みが作業ミスの原因となります。小さいミスの積み重ねが、大きなミスに繋がることがあります。

**3 作業のミスを直す**

農業の場合、相手は生き物！最初は小さなミスと思っていても作物が成長するにつれて大きな問題になることがあります。例えば、果実についた小さなキズは、収穫期になると大きなキズになり、商品価値を落としてしまいます。援農者は農家と一緒に農作物を作っています。一つひとつ作業を慎重に行いましょう。また、ミスをしてしまったら、腹さすに報告する。次からミスをしないための対策を立てる。といった事を守りましょう。

**4 再びミスを起こさないための対策**

援農者は同じミスを繰り返さないために農家に再度、作業方法を確認し、何度も繰り返し習得していくことが大事です。作業内容が自分には難しそう、仕事量が多く、体力的についていけないと感じたら、作業内容や役割分担を変えてもらうことも考えましょう。複雑すぎる作業、過度の仕事量を我慢していませんか？

**5 農家にやる気を見せる**

援農者が仕事に慣れてくれば、農家の期待も大きくなります。農家は援農者に対し、仕事の能率だけで判断せず、個々の個性を尊重し、その人の良さを引き出していくことにより、まとまりや共同意識の高まりなどを期待しています。農家は、

- ・みんなが頑張ってくれたから、今年も良い物ができた。
- ・今年はみんなのおかげで売上げが上がった。

など、援農者と一体感をもち、ともに喜びを感謝する気持ちを持っています。

**6 毎日のコミュニケーションを大切に**

仕事をしている上で一番大切なことは畠場の明るい雰囲気づくりです！援農者の明るいコミュニケーションは、農家や他の援農者の心を和ませる労働意欲を沸き立てるでしょう。

## ●【援農者受け入れ農家向け】～ハンドブック～

### 援農者を雇用する上での 心得

援農希望者と、受け入れ農家に起こる問題には  
様々な原因が考えられます。  
農家も、援農者も気持ちよく仕事ができるよう、  
心がけるべきことを一緒に学んでいきましょう。



**6 作業ミスを減らすには**

**① 農家と援農者の作業分担**  
作業は農家と援農者の作業分担を明確にすることが必要です。毎日必要な作業についてはチェック表のようなものを作り、援農者に作業を頼むようにします。

**② ミスへの対処**  
ミスをしてしまったら決して罵倒しない②ミスを繰り返しても、その都度丁寧に注意する。この2つが大切です。援農者のミス、失敗は農家の責任です。作物の特性をよく理解してもらい、作業内容、仕事量、体力などを考慮した役割分担を行うことが重要です。



お互いを理解し、  
力を合わせて  
頑張りましょう！

地区推進／連絡先

**【援農者受け入れ農家向け】～ハンドブック～**

**1 万一の補償対策と安全配慮**

**① 労災保険の加入**  
援農者を雇用するのであれば、必ず労災保険に加入してください。

**② 安全への配慮**  
経営者は、労働者に対して安全配慮義務を負っています。援農者が、その能力、技術を十分に發揮できるよう、農家は、安全に十分な配慮をすることが非常に重要です。

**3 作業環境面で配慮する点は**

**① 採光、換気を配慮した環境づくり(作業衣やレイアウト)**  
出荷作業や大きな手先の作業では、作業する場所が明るくなるよう、光源の位置を調整します。作業内容によっては、作業衣を用意してもらうか貸しの準備が必要です。また、出荷調整作業場に冷房あるいは暖房を設置している事例もあります。これらは、人を雇用していく場面では積極的に取り入れましょう。



**2 福利厚生面で大切なことは**

**① トイレ、洗面、更衣場所**  
農作業では、家と作業場が離れていることが多いため、公衆便所などの確保はしておきましょう。更衣場所は休憩室などカーテンで仕切りをして、作業衣を着替える場所を用意しておきましょう。

**② 休憩室(救急箱は必須、CDラジカセやラジオ等もあれば)**  
援農者の休憩及び昼食などの場所として、休憩室を設置します。救急用の常備薬(包帯、消毒液、絆創膏、胃腸薬)は常に用意しておきましょう。

**③ 明るい雰囲気作り(援農者同士のコミュニケーション)**  
農家の明るい笑顔や心のこもったコミュニケーションが一番大切です。

**4 上手な指導方法**

**① 仕事の流れを丁寧に教えましょう**  
援農者の様にならんで同じ目線で、一つひとつ区切って、部分を確認しながらカウンタゴトを丁寧に説明します。そしてやせてみます。何日間か自分一人でやせてみて修正していく程度のフォローアップを行います。

**② やる気を出させる**  
援農者達が頑張ってくれたから、これだけ業績が上がったというような事を示し、農家と一緒に進めて進めてきたことを共に喜び感謝します。

**③ 農家の指示、指揮系統が正確に伝わっているか**  
何時から(when)、誰と誰が(who)、どの場所で(where)、どの物を(what)、どのような作業で(how)行うのか、援農者にきちんと伝える意識が農家には必要です。

**④ 整理整頓**  
作業指示をするとき、自分が道具などの場所を知っていて、援農者がそれを探しわたりすることは、非常に能率の悪いことです。場所を決めて片づけなど指示することは、必ず行いましょう。

**⑤ アイデアをもらう**  
意欲のある農場は、アイデアや提案が豊富だと言われます。アイデア協力こそ、あなたに対するやる気のバロメーターです。

**5 援農者との人間関係について**

**① 欲求の満足度**  
農家が「給料さえ払えばいいんだ」という意識でいると、援農者の中には欲求が十分満たされず辞めてしまったりします。このため援農者の性格や態度など、日頃よく観察し、きめ細かい指導が大切です。



**② 仕事への評価、相互の理解**  
毎日の仕事ぶりを評価し、悪かった点については注意し、良かった点については褒めてあげ、仕事に対する自信と誇りを持たせるよう努めましょう。意欲の高い農場はアイデアや提案が豊富だと言われています。固定概念にとらわれずに、援農者の声も聞いてみてください。

**③ 体調の変化**  
バランの援農者が病気で休んでしまうことは、農家にとては大きな損失です。日頃から健康管理などに気を付けるようにしましょう。

**④ 毎日のコミュニケーション**  
明るい笑顔や心のこもったコミュニケーションは援農者の心を和ませ、労働意欲を沸き立たせるでしょう。